上智大学
グリーフケア人材養成講座

Grief Care Professional Program

2023年度
履修要覧・シラバス

グリーフケア人材養成課程
資格認定課程

上智大学グリーフケア研究所

【東京四谷キャンパス】

目　次

グリーフケア人材養成講座の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．グリーフケア人材養成講座が養成する人材像
２．グリーフケア人材養成課程の目的
３．資格認定課程の目的

グリーフケア人材養成課程の３つのポリシー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１．「臨床傾聴士」の資格認定に求められる基準（ディプロマ・ポリシー）
２．グリーフケア人材養成課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
３．グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

資格認定課程の３つのポリシー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
１．日本スピリチュアルケア学会認定「臨床スピリチュアルケア師」資格審査への受験資格基準（ディプロマ・ポリシー）
２．資格認定課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
３．資格認定課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

グリーフケア人材養成講座　担当教員一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

ガイドページ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１．グリーフケア研究所の事務室及び事務取扱時間
２．受講生への連絡
３．グリーフケア研究所への問合せ、教員への相談
４．図書館の利用
５．書籍・文具等の販売
６．食堂等
７．安全と安心のための心得
８．盗難に注意
９．ハラスメント相談
１０．個人情報保護

受講料等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
１．受講料
２．修業年限を越えて科目を履修する場合の受講料
３．休学した場合の在籍料

学事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
１．授業期間と学期
２．時間割
３．授業への出席・欠席
４．休講・補講
５．リアクション・ペーパー
６．試験・レポート
７．成績評価

８．成績表の配付
９．再履修
１０．演習・実習記録等の取り扱いについて
１１．グリーフケア人材養成課程の修了
１２．資格認定課程の修了

学籍 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
１．受講生番号
２．受講生証
３．在学
４．休学
５．復学
６．退学
７．再入学
８．身上情報の変更

カリキュラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
１．グリーフケア人材養成課程　カリキュラム・時間割・教室
２．資格認定課程　カリキュラム・時間割・教室
３．年間予定表

シラバス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
グリーフケア人材養成課程 演習４科目、臨床訪問実習、個別指導について ・・・・・ 25
グリーフケア人材養成課程シラバス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
資格認定課程シラバス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

上智大学グリーフケア研究所人材養成講座細則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

上智大学グリーフケア研究所臨床傾聴士に関する内規 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

【グリーフケア人材養成講座の概要】

１．グリーフケア人材養成講座が養成する人材像

上智大学の教育精神、“For Others, With Others - 他者のために、他者とともに生きる者”に基づき、死生学を基盤とし、さまざまな喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱える個人や共同体に対して、スピリチュアルケアを提供できる人材の養成を目指します。

グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生きるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解と変化に柔軟に対応したケア実践ができる人材を養成します。

２．グリーフケア人材養成課程の目的

① 医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教、その他、臨床の現場で対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成します。

② 遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、またケア提供者同士のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。

③ ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。

④ 上智大学グリーフケア研究所が認定する臨床傾聴士として、スピリチュアルケアを含む全人格的なケアがあらゆる場面で実践される社会の実現に貢献する人材を養成します。

３．資格認定課程の目的

① 医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教、その他、臨床の現場で対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成します。

② 遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、またケア提供者同士のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。

③ ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。

④ 一般社団法人日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格を取得し、スピリチュアルケアを含む全人格的なケアがあらゆる場面で実践される社会の実現に貢献する人材を養成します。

【グリーフケア人材養成課程の３つのポリシー】

１．「臨床傾聴士」の資格認定に求められる基準（ディプロマ・ポリシー）

① 課程修了に必要な単位を取得していること。

② 身体的・社会的・心理精神的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解していること。

③ 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。

④ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。

⑤ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。

⑥ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。

⑦ 上記①から⑥までの基準を満たしているかどうかを判定する総合審査に合格すること。

２．グリーフケア人材養成課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

① 講義において、グリーフケア、スピリチュアルケアに関する本質的な理解を得るとともに、演習・グループワークを通して実践的に学ぶ。

② グリーフケア、スピリチュアルケアに関する知識・技能を修得するとともに、ケア者に必要とされる意識態度、またグリーフケア、スピリチュアルケアにとって重要となる多様な価値観、宗教観・死生観を学ぶ。

③ スピリチュアルケア提供者を目指す受講生自身が、教育的に構成された場で互いにスピリチュアルケアを受けることを通して、ケアを総合的・実践的に学ぶ。

④ 常に、受講生・指導者・研究所職員また援助対象者を含むすべての関係者が互いに尊厳を尊重し、各自のスピリチュアリティの涵養を目指す。

３．グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

① 宗教者・対人援助職従事者もしくはそれらに準ずる立場に必要とされる、基本的なケア実践力またはその資質を持っていること。

② スピリチュアルケアに固有な人間観とそれに基づくケア実践力を身につけることを目指していること。

③ 講義および演習またグループワークを含む授業形態での学習において、受講生相互の成長を目指す意志があること。

④ 学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていないこと。

【資格認定課程の３つのポリシー】

１．一般社団法人日本スピリチュアルケア学会認定「臨床スピリチュアルケア師」資格審査への受験資格基準（ディプロマ･ポリシー）

① 課程修了に必要な単位を取得していること。

② 他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力を習得していること。

③ 身体的・社会的・心理精神的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解していること。

④ 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、ケア提供者としての課題と理解し、それに継続して取り組んでいること。

⑤ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。

⑥ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。

⑦ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す専門的な活動ができること。

⑧ 他職種との連携のなかでのスピリチュアルケア実践を理解し、チームの中で必要に応じて活動ができること。

⑨ 上記①から⑧までの基準を満たしているかを判定する総合審査に合格すること。

２．資格認定課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

① 他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力を総合的に学ぶ。

② 演習・グループワークを通して、グリーフケア、スピリチュアルケアを理論的かつ実践的に学ぶ。

③ グリーフケア、スピリチュアルケアの活動に密接に関連する学問領域について専門的に学ぶ。

④ グリーフケア、スピリチュアルケアに関する高度な知識・技能を修得するとともに、ケア者に必要とされる意識態度、またグリーフケア、スピリチュアルケアにとって重要となる多様な価値観、宗教観・死生観を把握する。

⑤ スピリチュアルケア提供者を目指す受講生自身が、教育的に構成された場で、互いにスピリチュアルケアを受けることを通して、ケアを体験的・実践的に学ぶ。

⑥ 受講生・指導者・研究所職員また援助対象者を含むすべての関係者が常に互いに尊厳を尊重し、各自のスピリチュアリティの涵養を目指す。

３．資格認定課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

① 宗教者・対人援助職従事者もしくはそれらに準ずる立場に必要とされる、基本的なケア実践力またはその資質を持っており、かつ、十分な活動実績を有していること。

② 社会において自らが果たそうとする役割や目標を十分に認識していること。

③ 講義および演習またグループワークを含む授業形態での学習において、受講生相互の成長を目指す意志があること。

④ ケア者としての基本的セルフケアの必要の理解と実践に努めており、学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていないこと。

グリーフケア人材養成講座　担当教員一覧（五十音順）

（2023 年 4 月 1 日現在）

【専任教員】

氏　名	本務等
山岡　三治	上智大学グリーフケア研究所 所長、カトリックイエズス会司祭
栗原　幸江	上智大学グリーフケア研究所 特任教授
大村　哲夫	上智大学グリーフケア研究所 特任教授
寺尾　寿芳	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
佐藤　啓介	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
葛西　賢太	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
森　裕子	上智大学神学部神学科 教授
酒井　陽介	上智大学神学部神学科 准教授
鈴木　伸国	上智大学文学部哲学科 准教授
久保　文彦	上智大学基盤教育センター 講師

【非常勤講師】

氏　名	本務等
阿瀬　寛幸	順天堂大学附属順天堂医院リハビリテーション室　作業療法士
栗津　賢太	グリーフケア研究所 客員研究員
生田　かおる	横浜国立大学保健管理センター　非常勤カウンセラー
井関　雅子	順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学　教授
井藤　佳恵	東京都健康長寿医療センター　福祉と生活ケア研究チーム　研究部長
伊藤　高章	立正佼成会附属佼成病院チャプレン
入江　杏	「ミシュカの森」主宰、世田谷区グリーフサポート検討委員
宇良　千秋	東京都健康長寿医療センター研究所　研究員
大澤　千恵子	東京学芸大学　准教授
岡村　毅	東京都健康長寿医療センター研究所　副部長
小川　有閑	大正大学地域構想研究所 BSR 推進センター　主幹研究員、蓮宝寺　住職
奥出　有香子	順天堂大学医学部附属練馬病院医療サービス支援センターがん看護専門看護師
奥野　滋子	順天堂大学医学部緩和医療学研究室　客員准教授、医療法人長谷川会湘南ホスピタル 医師
小野　仁美	東京大学大学院人文社会系研究科　助教
柿森　千草	学校法人聖路加国際大学聖路加国際病院　相談員
加藤　俊介	順天堂大学大学院医学研究科臨床腫瘍学　教授
加藤　眞三	慶応義塾大学　名誉教授、東海大学医学部非常勤講師、エムオーエー高輪クリニック院長

氏　名	本務等
加藤　理絵	ヤマザキ動物看護大学　准教授
川上　祐美	立教大学　非常勤講師
北出　真理	順天堂大学医学部産婦人科学講座　教授
郷堀　ヨゼフ	淑徳大学総合福祉研究科　教授
佐々木　炎	中原キリスト教会　牧師、主任介護支援専門員
鹿間　直人	順天堂大学医学部放射線医学教室・放射線治療学講座　教授
島薗　進	東京大学名誉教授、大正大学　客員教授
東海林　良昌	浄土宗総合研究所　研究員、浄土宗雲上寺　住職
管　心	帝京平成大学大学院臨床心理学研究科　教授
髙木　辰哉	順天堂大学医学部整形外科学講座　先任准教授
髙瀬　顕功	大正大学社会共生学部　専任講師
髙橋　啓示	順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター　心理士
高橋　祥友	医療法人啓仁会ロイヤルこころの里病院　診療部長
田嶋　美幸	順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター薬剤部　薬剤師
滝沢　龍	東京大学大学院教育学研究科　准教授
田村　恵子	大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化推進研究センター　教授
栃木　衛	電気通信大学保健管理センター 教授
中村　圭志	宗教学者、文筆家、昭和女子大学非常勤講師
橋迫　瑞穂	大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター　研究員
浜渦　辰二	大阪大学　名誉教授
藤村　純也	順天堂大学医学部小児科学講座　准教授
的場　由木	NPO 法人自立支援センターふるさとの会　理事
水嶋　章郎	順天堂大学大学院医学研究科緩和医療学　教授、順天堂医院　緩和ケアセンター長
吉川　征一郎	順天堂大学医学部肝・胆・膵外科学　准教授
吉水　岳彦	浄土宗光照院　住職、ひとさじの会　事務局長
分田　貴子	東京大学医学部附属病院がん相談支援センター　副センター長
渡邉　心	順天堂大学医学部救急・災害医学研究室　准教授

【ガイドページ】

１．グリーフケア研究所の事務室及び事務取扱時間

⑴　グリーフケア研究所の事務室は 10 号館 3 階 321 室です。

電話：　03-3238-3776　　FAX：　03-3238-4661

⑵　事務取扱時間は下記のとおりです。原則として時間外の取扱いはできません。

平日　　月～金　10:00 ～ 11:30　12:30 ～ 17:00

※ただし、講座を開講する日は以下のとおりです。

水曜日　13:00 ～ 20:00　土曜日　9:00 ～ 17:00

⑶　授業のない土曜・日曜・祝日は休業です。

⑷　土曜・日曜・祝日以外の休業日及び業務その他の都合により、事務室の開室及び事務取扱時間に変更がある場合は、その都度、メール等で連絡します。

２．受講生への連絡

⑴　グリーフケア研究所から受講生への連絡は、原則としてメールで行います。連絡用のメールアドレスを必ず登録してください。なお、成績表や受講料の振り込みなど、重要なお知らせは郵送します。

３．グリーフケア研究所への問合せ、教員への相談

⑴　授業についての情報や履修に関する相談は、電話またはメールおよびグリーフケア研究所事務室に連絡してください。

電話　　03-3238-3776

電子メール　　mgriefcare-ofc@sophia.ac.jp

⑵　グリーフケア研究所の専任教員は、受講生との相談時間（オフィスアワー）を設けています。
グリーフケア研究所事務室にメールまたは電話で予約してください。

⑶　授業の担当教員に相談がある場合は、グリーフケア研究所事務室にメールにて相談ください。

４．図書館の利用

⑴　グリーフケア人材養成講座の受講生は、図書館を利用することができます。図書館内で学習することや、図書の閲覧・貸出ができます。

⑵　図書館への入館には、受講生証が必要です。

⑶　開館時間、所蔵書籍、貸出冊数、貸出期間等についてなど、詳細については上智大学図書館のホームページをご覧ください。上智大学　図書館で検索

５． 書籍・文具等の販売

(1) グリーフケア人材養成講座の受講生は、2 号館地下 1 階の紀伊國屋書店上智大学店（Kinokuniya Sophia Square）で、書籍や文房具等を割引価格で購入することができます。
詳細な営業時間は、紀伊國屋書店上智大学店のホームページをご覧ください。
上智大学　紀伊國屋書店で検索

６． 食堂等

(1) 四谷キャンパス内には、以下の食堂およびコンビニエンスストアがあります。
学生食堂、サブウェイ（2 号館 5 階）
S-Café（6 号館 1 階）
9-CAFÉ （9 号館地下 1 階）
ラウンジ（11 号館地下 1 階）
東京ハラルデリ＆カフェ（ホフマンホール 4 階）
セブンイレブン（12 号館地下 1 階）
営業時間は、平日、土日祭日、時期によって変わりますので、ホームページでご確認ください。
上智大学　食堂　または　上智大学　コンビニ　で検索

７． 安全と安心のための心得

(1) キャンパス内にいる時に、大地震が発生したときは、まず自分の身の安全を確保してください。
また、大学からの指示に従い、大学が指定する避難場所に避難してください。
(2) 火災を発見したときは、周囲に大声で知らせ、近くの火災報知機のボタンを押すか、下記の正門守衛所または防災センターに連絡してください。なお、もし可能であるならば、近くの消火器等で初期消火をしてください。

大学の緊急連絡先	
正門守衛所	03-3238-3000（24 時間対応）
防災センター	03-3238-3119（24 時間対応）

８．盗難に注意

⑴　大学のキャンパスは、誰もが自由に立ち入ることが可能なことから、盗難が発生することがあります。特に、図書館や学生食堂、あるいは教室などに、ちょっと荷物を置いた隙に、盗難の被害に遭うケースが多発しています。

⑵　自分の持ち物は、どこかに置いたりせずに、自分でしっかりと管理してください。

９．ハラスメント相談

⑴　上智大学は、公正で安全な学習・生活環境を保証するため、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等の各種ハラスメントの防止に努めています。

⑵　各種ハラスメント相談の申込みは、電話及びホームページで受け付けています。詳しくは、上智大学公式ホームページを参照してください。

１０．個人情報保護

⑴　「上智学院個人情報保護方針」を定めるとともに、個人情報の定義、個人情報の収集、利用の制限、安全管理措置を明確化しています。

⑵　上智学院個人情報保護への取組みについては上智大学公式ホームページを参照してください。

⑶　個人情報保護に関する相談窓口は、以下のとおりです。

上智学院総務局　　TEL　03-3238-3172　　FAX　03-3238-3137

【受講料等】

１．受講料

⑴　グリーフケア人材養成講座の受講料は、以下のとおりです。

2021 年度以降入学者

	人材養成課程	資格認定課程
1 年目	276,000 円	412,000 円
2 年目	276,000 円	－

2020 年度以前入学者

	人材養成課程
1 年目	240,000 円
2 年目	240,000 円

⑵　受講料は、春学期と秋学期の半期ずつ、分割して納入してください。
⑶　秋学期の受講料の納入時期は 10 月中旬です。
⑷　春学期（グリーフケア人材養成課程 2 年次）の納入時期は 4 月中旬です。

２．修行年限を越えて科目を履修する場合の受講料

⑴ 休学期間を除き、修業年限内に授業科目の単位を修得できずに、再度、当該科目を受講する場合は、当該科目にかかる受講料のみ納入してください。
⑵ この場合の受講料は、再度受講する科目によって異なりますので、グリーフケア研究所事務室にお問合せください。

３．休学した場合の在籍料

⑴　傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合、休学することができます。
⑵　休学する期間は、受講料は不要ですが、年度単位で以下の在籍料を納入してください。
在籍料　　20,000 円　（1 学期、1 学年度の休学である場合も同額）

【学　事】

１．授業期間と学期

⑴　授業の開始日と終了日は、「【カリキュラム】３．年間予定表」（21 頁）のとおりです。
⑵　授業は、春学期と秋学期に分かれて開講します。
　春学期：4 月 1 日～ 9 月 20 日　　秋学期：9 月 21 日～ 3 月 31 日
⑶　授業の回数は、春学期、秋学期とも、水曜日が 15 回、土曜日が 8 回です。

２．時間割

⑴　授業は 1 コマ 90 分で、以下の時間割で開講します。

曜　日	時　限	授業時間
水曜日	6 時限	18：30 ～ 20：00
土曜日	1 時限	9：30 ～ 11：00
	2 時限	11：10 ～ 12：40
	3 時限	13：30 ～ 15：00
	4 時限	15：10 ～ 16：40
	5 時限	16：50 ～ 18：20

⑵　水曜日の授業は、6 時限の 1 コマのみです。
⑶　土曜日の授業は、1 時限から 5 時限までの 5 コマです。
⑷　土曜日の 2 時限と 3 時限の間（12：40～13：30）は昼休みです。

３．授業への出席・欠席

⑴　出席の取扱いについては、各科目のシラバスに記載された「評価」の欄を参照してください。
⑵　講義科目の欠席の連絡は不要ですが、演習科目や実習科目については欠席の連絡が必要です。詳細については、授業開始後に別途連絡いたします。
⑶　グリーフケア人材養成講座に公欠や欠席届の制度はありません。このため、忌引、交通機関の遅延、傷病などによってやむを得ず欠席した場合であっても、出席と見なすことはありません。
⑷　授業に遅刻して、中途から出席した場合の取扱いについては、各担当教員の判断によります。
⑸　受講生が学校保健安全法に定められた感染症に罹患した場合は、感染拡大を防ぐために所定の期間、大学への登校が禁止されます。そのような場合には、医師の指示に従い、感染の危険がなくなるまで自宅療養してください。また、グリーフケア研究所事務室に電話またはメールで報告してください。
⑹　「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づいて、受講生が裁判員に選任された場合（その選任手続を含む）、当該授業を欠席することについて研究所に申し出てください。
⑺　傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合は、グリーフケア研究所事務室に連絡してください。
⑻　欠席した授業の資料は、後日、入手することが可能です。入手方法等については、授業開始後に別途連絡いたします。

４．休講・補講

⑴ 担当教員が公務、出張、学会、病気等によって授業ができなくなり、授業が休講となる場合があります。
⑵ 台風・大雨などの自然災害や事故などによる交通機関の遅延や停止のため、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講の措置を取ることがあります。
⑶ 事前に休講となることがわかっている場合は、グリーフケア研究所事務室から受講生にメールで連絡します。　なお、授業当日に休講が判明した場合は、授業実施直前に連絡することがあります。
⑷ 授業が休講となった場合は、原則として補講を行います。補講の方法、日時、場所等については、グリーフケア研究所事務室から受講生にメールで連絡します。

５．リアクションペーパー

⑴ 対面で行う授業科目では、授業終了時に、リアクションペーパーの提出を求める場合があります。
⑵ リアクションペーパーは、授業に出席した受講生が授業内容をどの程度理解したかを見るための資料であり、成績評価基準の一つとなることもあります。
⑶ リアクションペーパーは、授業当日に提出してください。
⑷ リアクションペーパーは、所定の用紙を使用してください。各自が作成した用紙では受け付けません。
⑸ 水曜日の授業はオンラインのため、リアクションペーパーの代わりに、リアクションメールを提出していただきます。提出方法等については、別途、お知らせします。

６．試験・レポート

⑴ すべての科目で、学期末試験またはレポートの提出を求めます。
⑵ 筆記試験を実施する場合は、原則として、授業の最終日に実施します。
⑶ レポート提出の場合、課題の内容、提出方法、提出先、締切期日等について、グリーフケア研究所事務室からメールで連絡します。

７．成績評価

⑴ 成績評価は、担当教員が定める授業方針・成績評価基準によって、出席回数、リアクションペーパーの提出状況と内容、授業参加の状況、学期末試験、提出レポート、その他に基づいて行われます。各授業科目の成績評価基準は、シラバスを参照してください。

⑵ グリーフケア人材養成講座の成績評価基準は次のとおりです。

判定	評価	評点	内容
合格	A	100～90 点	特に優れた成績を示したもの
	B	89～80 点	優れた成績を示したもの
	C	79～70 点	妥当と認められる成績を示したもの
	D	69～60 点	合格と認められるための最低限度の成績を示したもの
認定	P	―	修得単位として認定されたもの
不合格	F	59 点以下	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの

８．成績表の送付

⑴ 春学期の成績表は、9 月中旬に郵送します。
⑵ 秋学期の成績表は、3 月中旬に郵送します。

９．再履修

⑴「不合格」となった授業科目は、再履修して当該授業科目の単位を修得しない限り、修了できません。
⑵ グリーフケア人材養成課程の授業科目は、基本的に 1 年次の春学期から、2 年次の秋学期まで、段階的にカリキュラムが組み立てられているため、1 年次において、単位未修得の授業科目がある場合は、原則として 2 年次の授業科目を履修することができません。このため、まず 1 年次の未修得科目を再履修して単位を修得し、その上で翌年度に 2 年次の授業科目を履修します。
⑶ 単位未修得科目の再履修にあたっては、科目の種類等によって柔軟な対応が可能な場合もあるため、グリーフケア研究所の専任教員と面談して履修計画を相談してください。

１０．演習・実習記録等の取り扱いについて

グリーフケア人材養成講座では各課程において、演習・実習・個別指導での音声および映像を記録する場合があります。記録は、受講生への教育・指導を目的としていますので、受講生が視聴することはできません。また、音声、映像や、演習・実習で提出した書類は、在籍中、個人情報保護の観点から厳重に管理された場所に保管します。なお、修了した方のこれらのデータは、修了から 6 か月後に全て廃棄します。

１１．グリーフケア人材養成課程の修了

(1) グリーフケア人材養成課程の修了要件は、次のとおりです。

① グリーフケア人材養成課程に 2 年間以上在学すること。

② すべての授業科目の単位を修得すること。

(2) 上記の修了要件を満たした受講生は、同課程の修了生として、「修了証書」及び学校教育法が定める「履修証明プログラム」に基づく「履修証明書」を交付します。

（履修証明書・修了証書のサンプル）

修了証番号　GE1-001 号

履修証明書・修了証書

上智　太郎　殿
1966 年 5 月 20 日生

学校教育法第１０５条の規定に基づき、本学グリーフケア研究所グリーフケア人材養成講座グリーフケア人材養成課程の所定の単位（３０単位）を修め、修了したことを証明します。

人材養成課程の概要

グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生き共存できるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解とダイナミックなケア実践ができる人材を養成する。

○○○○年○月○○日

上智大学長　　○○○○　　印

(3) グリーフケア人材養成課程の修了要件を満たした上で、以下に掲げる要件を満たした受講生は、上智大学が付与する「臨床傾聴士」の資格を認定します。

① 身体的・精神的・社会的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解することができること。

② 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。

③ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。

④ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。

⑤ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。

(4) 上記(3)に定める要件を満たしているかどうかについては、グリーフケア人材養成課程の修了前に行われる「総合審査」において判定します。

(5) 臨床傾聴士の資格を付与されるためには、上記(4)の「総合審査」に合格した後、「臨床傾聴士倫理講習会」を受講する必要があります。

１２．資格認定課程の修了

(1) 資格認定課程の修了要件は、次のとおりです。

① 資格認定課程に１年間以上在学すること。

② すべての授業科目の単位を修得すること。

(2) 上記の修了要件を満たした受講生は、同課程の修了生として、「修了証書」及び学校教育法が定める「履修証明プログラム」に基づく「履修証明書」を交付します。

（履修証明書・修了証書のサンプル）

修了証番号　GE2-001 号

履修証明書・修了証書

上智　太郎　殿
1966 年 5 月 20 日生

学校教育法第１０５条の規定に基づき、本学グリーフケア研究所グリーフケア人材養成講座資格認定課程の所定の単位（１８単位）を修め、修了したことを証明します。

資格認定課程の概要

グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生き共存できるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解とダイナミックなケア実践ができるとともに、ケア提供者としての課題に継続して取り組む人材を養成する。

○○○○年○月○○日

上智大学長　　○○○○　　印

(3) 資格認定課程の修了要件を満たした上で、以下に掲げる要件を満たした受講生は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格審査への受験資格を付与します。

① 身体的・精神的・社会的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解することができること。

② 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。

③ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。

④ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。

⑤ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。

(4) 上記(3)に定める要件を満たしているかどうかについては、資格認定課程の修了前に行われる「総合審査」において判定します。

【学　籍】

１．受講生番号

受講生番号は、入学すると各人に固有の受講生番号が付与されます。授業の受講、さまざまな連絡や手続きなどの際、受講生番号が必要ですので、正確に記憶してください。

（受講生番号の読み方）

（例）　２３　　ＧＥ　１　００１

入学年度　キャンパスコード　受講課程のコード　本人の固有番号

(GE:東京、GW:大阪)　(1:グリーフケア人材養成課程、2:資格認定課程、3:専門課程)

２．受講生証

⑴　入学の際、「受講生証」をお渡しします。

⑵　受講生証は、上智大学において、グリーフケア人材養成講座の受講生であることを証明するものです。このため大学構内で求められた際、提示しなければなりません。また、図書館の入館の際にも必要です。

⑶　グリーフケア人材養成講座を修了した場合、あるいは退学により学籍を失った場合は、受講生証をグリーフケア研究所事務室に返却してください。

⑷　受講生証を紛失した場合は再発行しますので、グリーフケア研究所事務室まで連絡してください。

⑸　受講生証の記載事項に変更が生じた場合は、グリーフケア研究所事務室に申し出てください。

３．在学

【グリーフケア人材養成課程】

⑴　受講生が授業を受講して単位を修得する期間を、「在学」の期間と言います。グリーフケア人材養成課程の標準修業年限は２年ですので、受講生は、最低２年間は「在学」します。

⑵　単位未修得により、授業科目を再履修する場合、この「在学」の期間が２年間を超えることになりますが、本課程で「在学」することのできる期間は、休学期間を除き最長４年間です。

⑶　最長４年間の「在学」の期間で、所定の単位が修得できない場合は退学となります。

【資格認定課程】

⑴　受講生が授業を受講して単位を修得する期間を、「在学」の期間と言います。資格認定課程の標準修業年限は１年ですので、受講生は、最低１年間は「在学」します。

⑵　単位未修得により、授業科目を再履修する場合、この「在学」の期間が１年間を超えることになりますが、本課程で「在学」することのできる期間は、休学期間を除き最長２年間です。

⑶　最長２年間の「在学」の期間で、所定の単位が修得できない場合は退学となります。

４．休学

【グリーフケア人材養成課程】

⑴　休学とは、グリーフケア人材養成課程の受講生としての学籍を有したままで、一定の期間、授業を受講しないことを指します。たとえば、傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合などが該当します。

⑵　休学の期間は、春学期または秋学期の1学期、または1年度を単位とします。1学期よりも短い期間での休学はできません。

⑶　休学することのできる期間は、連続あるいは通算して、合計2年間です。

⑷　最長2年間の休学期間を満了しても、在学して授業を受講することができない場合は、退学となります。

⑸　休学しようとする場合は、必ず事前にグリーフケア研究所の専任教員と相談して、グリーフケア研究所事務室に「休学願」を提出してください。

⑹　休学期間中は、受講料は不要です。ただし、所定の在籍料を納入してください。

【資格認定課程】

⑴　休学とは、資格認定課程の受講生としての学籍を有したままで、将来また「在学」して、授業を受講することを予定して、一定の期間、授業を受講しないことを指します。たとえば、傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合などが該当します。

⑵　休学の期間は、春学期または秋学期の1学期、または1年度を単位とします。1学期よりも短い期間での休学はできません。

⑶　休学することのできる期間は、連続あるいは通算して、合計1年間です。

⑷　最長1年間の休学期間を満了しても、在学して授業を受講することができない場合は、退学となります。

⑸　休学しようとする場合は、必ず事前にグリーフケア研究所の専任教員と相談して、グリーフケア研究所事務室に「休学願」を提出してください。

⑹　休学期間中は、受講料は不要です。ただし、所定の在籍料を納入してください。

５．復学

休学期間が満了したとき、または、1 年度の休学を 1 学期で切り上げて在学して授業を受講しようとするときは、所定の「復学届」を、グリーフケア研究所事務室に提出してください。

６．退学

⑴　退学には、受講生が自主的に退学する場合と、退学を命ぜられる場合の2つがあります。

⑵　受講生が自らの意思で退学する場合は、所定の「退学願」に必要事項を記入の上、グリーフケア研究所事務室に提出してください。

⑶　傷病、仕事、家庭、その他の事情により、やむを得ず退学しようとする場合は、事前にグリーフケア研究所の専任教員に相談するようにしてください。

⑷　受講生が以下のいずれかの事項に該当する場合、退学となります。

【グリーフケア人材養成課程】

① 在学期間が 4 年を経過したにもかかわらず、課程の修了要件を満たさないとき
② 通算した休学期間が 2 年を経過したにもかかわらず、復学できないとき
③ 受講料を納付せず、かつ督促をしても納入しないとき
④ 上智大学の秩序を乱したとき、または、上智大学の名誉を著しく毀損したとき
⑤ 上智大学グリーフケア研究所の授業その他の運営を乱したとき
⑥ グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針 （アドミッション・ポリシー）にそぐわず、同課程を受講することが不適当と認められたとき
⑦ 出願書類及び入学手続書類に虚偽を記載し、グリーフケア人材養成課程の出願資格に合致しないことが明らかとなったとき

【資格認定課程】

① 在学期間が 2 年を経過したにもかかわらず、課程の修了要件を満たさないとき
② 通算した休学期間が 1 年を経過したにもかかわらず、復学できないとき
③ 受講料を納付せず、かつ督促をしても納入しないとき
④ 上智大学の秩序を乱したとき、または、上智大学の名誉を著しく毀損したとき
⑤ 上智大学グリーフケア研究所の授業その他の運営を乱したとき
⑥ 資格認定課程の受講生の受け入れの方針 （アドミッション・ポリシー）にそぐわず、同課程を受講することが不適当と認められたとき
⑦ 出願書類及び入学手続書類に虚偽を記載し、資格認定課程の出願資格に合致しないことが明らかとなったとき

7．再入学

⑴ グリーフケア人材養成課程、資格認定課程を退学した者のうち、上記6.の⑵に定める自主的に退学した者、または、上記6.の⑷の②及び③のいずれかの事由により退学した者は、願い出により、再入学を認めることがあります。
⑵ 再入学を希望する場合は、希望する年度の前年12月までに、グリーフケア研究所事務室に相談してください。

8．身上情報の変更

⑴ 氏名、住所、電話番号、電子メールアドレス、職業、緊急連絡先、その他身上に変更があった場合は、所定の様式にて、グリーフケア研究所事務室に届け出てください。
⑵ 住所や電子メールアドレスの変更の届出が無い場合、グリーフケア研究所からの連絡が届かないことになり、受講生に不利益が生じることとなります。

【カリキュラム】

1．グリーフケア人材養成課程　カリキュラム・時間割・教室

学年	開講期	曜日	時間	科目名	単位数	教室
1年次	春	水曜日	18：30 ～ 20：15	グリーフケア原論	2	オンライン
		土曜日	9：30 ～ 11：00	宗教学	2	6-410
			11：10 ～ 12：40			
			13：30 ～ 15：00	基礎演習	2	6-409 (集合場所)
			15：10 ～ 16：40			
			16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅰ	1	(別途通知)
	秋	水曜日	18：30 ～ 20：15	キリスト教人間学	2	オンライン
		土曜日	9：30 ～ 11：00	スピリチュアルケアと芸術	2	6-410
			11：10 ～ 12：40			
			13：30 ～ 15：00	グリーフケア援助演習Ⅰ	2	6-409 (集合場所)
			15：10 ～ 16：40			
			16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅱ	1	(別途通知)
	通年	不定期	－	グリーフケア臨床訪問実習Ⅰ	1	－
2年次	春	水曜日	18：30 ～ 20：15	グリーフケア援助論	2	オンライン
		土曜日	9：30 ～ 11：00	グリーフケア援助演習Ⅱ	2	6-401 (集合場所)
			11：10 ～ 12：40			
			13：30 ～ 15：00	臨床倫理	2	6-401
			15：10 ～ 16：40			
			16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅲ	1	(別途通知)
	秋	水曜日	18：30 ～ 20：15	スピリチュアルケア原論	2	オンライン
		土曜日	9：30 ～ 11：00	総合演習	2	6-401 (集合場所)
			11：10 ～ 12：40			
			13：30 ～ 15：00	死生学	2	6-401
			15：10 ～ 16：40			
			16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅳ	1	(別途通知)
	通年	不定期	－	グリーフケア臨床訪問実習Ⅱ	1	－
合計修得単位数					30	

※　教室の表記について・・・(例) 6-409　6 号館 4 階 409 教室

※　教室は変更になる場合があります。教室を変更する場合は、事前にメールにてお知らせします。

※　グリーフケア臨床訪問実習Ⅰおよびグリーフケア臨床訪問実習Ⅱは、1 年間に 3～4 回程度、少人数のグループに分かれて遺族会や患者会等を訪問し、実際にグリーフケアの現場を体験するもので、実習前の「事前指導」と、実習後の「振り返り」を受講することが必要です。この実習にあたっては、可能な限り受講生と実習先のスケジュールを調整しますが、平日の日中に時間を空けることが必要な場合があります。

２．資格認定課程　カリキュラム・時間割・教室

開講期	曜日	時間	科目名	単位数	教室
春	水曜日	18：30 ～ 20：15	精神医学・精神保健	2	オンライン
	土曜日	9：30 ～ 11：00	文献講読Ⅰ 臨床心理とグリーフケア	各 1	6-502
		11：10 ～ 12：40			
		13：30 ～ 15：00	実習スーパービジョンⅠ	2	6-502 (集合場所)
		15：10 ～ 16：40			
		16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅴ	1	(別途通知)
秋	水曜日	18：30 ～ 20：15	先端医療・緩和医療	2	オンライン
	土曜日	9：30 ～ 11：00	文献講読Ⅱ ソーシャルワークとグリーフケア	各 1	6-502
		11：10 ～ 12：40			
		13：30 ～ 15：00	実習スーパービジョンⅡ	2	6-502 (集合場所)
		15：10 ～ 16：40			
		16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅵ	1	(別途通知)
集中		－	集中臨床実習・演習Ⅰ	2	－
			集中臨床実習・演習Ⅱ	2	－
通年		－	通年実習	－	－
合計修得単位数				18	

※　教室の表記について・・・(例) 6-502　6 号館 5 階 502 教室

※　教室は変更になる場合があります。教室を変更する場合は、事前にメールにてお知らせします。

※　土曜日・春学期の「文献講読Ⅰ」と「臨床心理とグリーフケア」、土曜日・秋学期の「文献講読Ⅱ」と「ソーシャルワークとグリーフケア」は、原則として月 1 回交代で開講します。
詳細は、シラバスを参照してください。

※　集中臨床実習・演習Ⅰと集中臨床実習・演習Ⅱでは、2023 年 8 月～9 月と 2024 年 1 月～2 月に、医療機関及び福祉施設において、1 週間の集中実習を行います。

※　通年実習は、受講生自身が選んだ臨床現場において、年間 80～100 時間の実習を行い、教員の指導の下に実習報告としての会話記録を検討するものです。

※　日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格審査の受験資格を得るためには、このカリキュラム・時間割の科目を履修し、すべての単位を修得するとともに、年度末に実施する総合審査に合格することが必要です。

3. 年間予定表【教務日程】

各月のカレンダーの日付に、〇印の付いている日が、グリーフケア人材養成講座の開講日です。
春・秋の各学期に水曜日は15回、土曜日は8回開講します。

2023年4月1日～9月20日 （春学期）

2023 年 4 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 ①	3	4	5 ①	6	7	8
9	10	11	12 ②	13	14	15 ②
16	17	18	19 ③	20	21	22
23	24	25	26 ④	27	28	29 ③
30						

開講式 4月2日（日）
※開講式終了後、第1回目の土曜日の授業を行います。

※通常、土曜日の授業は第1・第3土曜日ですが、4月は第5週目の4/29{昭和の日}に第3回目の授業を行います。

2023 年 5 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9	10 ⑤	11	12	13
14	15	16	17 ⑥	18	19	20 ④
21	22	23	24 ⑦	25	26	27
28	29	30	31 ⑧			

※5/6（土）は第1週目ですが、授業は行いません。

2023 年 6 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 ⑤
4	5	6	7 ⑨	8	9	10
11	12	13	14 ⑩	15	16	17 ⑥
18	19	20	21 ⑪	22	23	24
25	26	27	28 ⑫	29	30	

2023　年　　7 月

日	月	火	水	木	金	土
						1 ⑦
2	3	4	5 ⑬	6	7	8
9	10	11	12 ⑭	13	14	15 ⑧
16	17 海の日	18	19 ⑮	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

【春学期のレポートについて】

7月19日（水）の最終授業終了後に、レポート課題・提出方法等をお知らせします。

★レポートの提出期限は、8月9日（水）です。

2023　年　　8 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

★春学期レポート提出期限　8月9日（水）

2023　年　　9 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ★
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 ★	16

★実践研究発表会　9月2日（土）

修了生による発表会を年2回、9月と3月の第1土曜日に開催しています。

★春学期成績表郵送　9月15日（金）

2023年9月21日～2024年3月31日 （秋学期）

17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
24	25	26	27 ①	28	29	30

2023 年 10 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 ②	5	6	7 ①
8	9 スポーツの日	10	11 ③	12	13	14
15	16	17	18 ④	19	20	21 ②
22	23	24	25 ⑤	26	27	28
29	30	31				

2023 年 11 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 創立記念日	2	3 文化の日	4
5 ③	6	7	8 ⑥	9	10	11
12	13	14	15 ⑦	16	17	18 ④
19	20	21	22 ⑧	23 勤労感謝の日	24	25
26	27	28	29 ⑨	30		

※通常、土曜日の授業は第1・第3土曜日ですが、11月は11/4(土)ではなく11/5(日)に第3回目の授業を行います。

2023 年 12 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ⑤
3	4	5	6 ⑩	7	8	9
10	11	12	13 ⑪	14	15	16 ⑥
17	18	19	20 ⑫	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2024　年　　1 月

日	月	火	水	木	金	土
元日	1	2	3	4	5	6 ⑦
7	8 成人の日	9	10 ⑬	11	12	13
14	15	16	17 ⑭	18	19	20 ⑧
21	22	23	24 ⑮	25	26	27
28	29	30	31			

【秋学期のレポートについて】

1月24日（水）の最終授業終了後に、レポート課題・提出方法等をお知らせします。

★レポートの提出期限は、2月14日（水）です。

2024　年　　2 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11 建国記念日	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
25	26	27	28	29		

★秋学期レポート提出期限　2月14日（水）

2024　年　　3 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ★
3	4 ★	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16 ★
17	18	19	20 春分の日	21	22 ★	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

★実践研究発表会　3月2日（土）

修了生による発表会を年2回、9月と3月の第1土曜日に開催しています。

★修了式の案内および秋学期の成績郵送（修了者宛）　3月4日（月）

★修了式　3月16日（土）

★修了式当日、「臨床傾聴士」資格付与のための倫理講習会を開催。

★2024年度春学期の案内および秋学期の成績郵送（人材新2年生宛）　3月22日（金）

2023 年度　シラバス

※シラバスに記載されている内容は変更の可能性があります。

人材養成課程の演習科目で共通して取り組むこと

基礎演習・援助演習Ⅰ・援助演習Ⅱ・総合演習

2023年度

グリーフケア人材養成課程では、４学期間にわたる演習４科目を通して、価値観、信仰・信念、経験の異なる方々の物語を、自己の価値観との違いを尊重しつつ、確かめ、傾聴します。その取り組みを通して、受講者同士の信頼感を醸成し、安心して語りうる、ケアの共同体をつくっていきます。いっぽう、自己の人生にとって重要な価値観や信仰・信念や経験も、大切に確かめていきます。

このようにして、価値観や信仰・信念の揺らぎに直面している方々のそばにいて支援する、スピリチュアルケアを学びます。

この学びは、人材養成講座修了後の諸課程でもずっと継続されます。

【演習科目を通しての学び】

１．傾聴する道具でもある自分自身を知ることの重要性を確認する。

２．しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ。

３．演習科目を通して、以下の５領域の習得と向上を目指す。

１）自己理解

等「心」大の自己を理解し、自己の個性や課題を、ケアに生かすことができる。

２）他者理解

他者の心の動きを共感的に感じ取り、他者とありのままに向き合うことができる。

３）関係力・共感力

他者と適切な信頼関係を築き、その関係性のあり方を敏感に感じることができる。

４）概念化力・表現力

ケア現場で生じることの意味を了解し、適切に他者に表現することができる。

５）臨床倫理実践力

ケア場面で、人権意識をもった倫理的配慮ができる。

【演習科目の中で、「いま、ここ」の自分を観察する作業】

〔授業前〕

インベントリ(精神／身体／社会／スピリチュアルの四側面から、「いま、ここ」の自身を書き留める）・・・各自保管

〔終了時〕

チェックアウト（演習終了を前に「いま、ここ」の自分を言葉にする）

〔授業後〕

リフレクション(演習科目を終え「いま、ここ」の自分を書き留める）・・・各自提出

【演習科目を通しての約束事】

演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。

【人材養成課程修了後の学び】

人材養成課程	２年間
資格認定課程	１年間
専門課程	１年間

大学院実践宗教学研究科

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	グリーフケア原論
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太（コーディネーター）、浜渦辰二、島薗進、伊藤高章、栗原幸江、大村哲夫、山岡三治
講義概要	上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの基礎を形成する入門科目。 当研究所は、グリーフ（悲嘆）を死別に伴う心的過程に限定せず、人生に不可避な様々な喪失体験に伴う心の反応と考え、ケアの対象と考えている。したがって、グリーフケアは、人生の危機に直面した人間性への総合的なケアである。また、グリーフは、人間のスピリチュアリティの最も根源的な表現でもあり、グリーフケアはスピリチュアルケアの基礎である。 この講義では、グリーフケアとは何かについて全体像を学ぶとともに、ケア提供者の姿勢についての理解を深める。特に、人間科学的な援助とは異なり、思想・宗教・伝統・文化の歴史性・多様性に注目しつつ行われるグリーフケアの背景とその実践的、理論的理解を図る。 随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。
授業目標	１）上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの焦点と受講生に求められる能力について理解する。 ２）グリーフケアの全体像とケアの特徴を理解する。 ３）グリーフケアとスピリチュアルケアの関係を理解する。 ４）グリーフケア、スピリチュアルケアにおけるケア提供者の姿勢について理解し、実践力の基礎を養う。
評価	学期末レポート

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/5)	浜渦	イントロダクション
第2回 (4/12)	島薗	グリーフケアの背景（１）
第3回 (4/19)	島薗	グリーフケアの背景（２）
第4回 (4/26)	伊藤	グリーフケアの理論（１）
第5回 (5/10)	伊藤	グリーフケアの理論（２）
第6回 (5/17)	伊藤	グリーフケアの理論（３）
第7回 (5/24)	栗原	グリーフケアの実践（１）
第8回 (5/31)	栗原	グリーフケアの実践（２）
第9回 (6/7)	栗原	グリーフケアの実践（３）
第10回 (6/14)	葛西	グリーフケアの位置づけ（１）
第11回 (6/21)	葛西	グリーフケアの位置づけ（２）
第12回 (6/28)	大村	グリーフケアのこころみ（１）
第13回 (7/5)	大村	グリーフケアのこころみ（２）
第14回 (7/12)	大村	グリーフケアのこころみ（３）
第15回 (7/19)	山岡	まとめ

教科書・参考書	参考書： 『ともに悲嘆を生きる』（島薗進）朝日新聞出版 ISBN:978-4-022-63082-7 『グリーフケア入門』（髙木慶子　編）勁草書房 ISBN:978-4-326-29900-3 『死ぬ瞬間－－死とその過程について』(E・キューブラー・ロス)中公文庫 ISBN:4-12-203766-2

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	宗教学
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	２単位
担当教員	寺尾寿芳（コーディネーター）、浜渦辰二、佐藤啓介、吉水岳彦、小野仁美
講義概要	原始から現在に至るまでのさまざまな諸宗教の思想と歴史を学び、ケア対象者・提供者の背景にある思想・宗教・伝統・文化について理解を深める。 随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。
授業目標	１）宗教とは何かを理解する。 ２）世界の諸宗教の中での日本の宗教の特徴について理解する。 ３）宗教の歴史的変化と現代人にとっての宗教を理解する。 ４）宗教とスピリチュアリティについて理解する。
評価	１）毎回授業後に提出するリアクションペーパー　30% ２）各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献　10% ３）学期末レポート　60%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2：日)	佐藤	現代日本の宗教状況
第2回 (4/15)	佐藤	宗教と死生観、宗教とケア
第3回 (4/29)	吉水	仏教はじめの一歩
第4回 (5/20)	吉水	仏教とグリーフ
第5回 (6/3)	寺尾	神話と呪術
第6回 (6/17)	寺尾	神道と日本人
第7回 (7/1)	小野	イスラームの教えと日常生活
第8回 (7/15)	浜渦	哲学と宗教（宗教を持たない人にとってのスピリチュアリティ）

教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：特になし

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	基礎演習
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	栗原幸江、伊藤高章、加藤眞三、粟津賢太
講義概要	第1学期「基礎演習」では、「人間という生きた教科書」であり支えを提供してくれる同級生との相互信頼関係を築く。 ケアに携わる自分自身のあり方は、携わるケアに大きな影響を及ぼすので、自分自身を知ることが重要である。だが、現代人、しばしばケア専門職は、自分自身の感情を抑圧することを身につけてしまっており、自分自身の感情を語ることが不得手になってしまっている。感情を語るのはどのような体験かを知らない者が、他者に感情の語りを求めることは、バランスを欠いていると私たちは考える。そのため、基礎演習では、傾聴の理論的･技術的講義とあわせ、自分自身の感情や体感を言葉にする訓練を行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	グループワークを開始し、自身を開きながら聴く姿勢に挑戦する １）【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響について体験的に理解しよう ２）【場に関わる】安心安全な場を意識し、フィードバックに挑戦しよう ３）【ケアの多様性】傾聴における「支持・明確化・対峙」を学ぼう
評価	演習科目では、全回出席しロールプレイやグループワークに貢献することが重要である。特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。 上記目標の各項目の達成度、出席、ロールプレイやグループワーク実践を総合的に判断して評価する。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2：日)	栗原、伊藤 加藤、粟津	オリエンテーション(講師・チューター紹介、学習目標・評価基準説明(シラバス確認)、２年間の予定、演習前後のふりかえり課題説明、毎回行うワークの紹介、テキスト紹介、守秘義務確認、受講生自己紹介、臨床訪問実習説明①)
第2回 (4/15)	栗原、伊藤 加藤、粟津	互いを知る＆出会いを味わう・臨床訪問実習説明②と日程調整
第3回 (4/29)	栗原、伊藤 加藤、粟津	対話にそなえ心身をととのえる（1）
第4回 (5/20)	栗原、伊藤 加藤、粟津	対話にそなえ心身をととのえる（2）
第5回 (6/3)	栗原、伊藤 加藤、粟津	応答する（心身の感覚を味わいつつ）
第6回 (6/17)	栗原、伊藤 加藤、粟津	対話する（心身の感覚を味わいつつ）
第7回 (7/1)	栗原、伊藤 加藤、粟津	ケアの記録について学ぶ、「スピリチュアルケア師倫理綱領」講義
第8回 (7/15)	栗原、伊藤 加藤、粟津	春学期振り返り、夏休みの宿題「私はこんな人です」オリエンテーション

教科書・参考書	参考書: 『共に生きるスピリチュアルケアーー医療・看護から宗教まで』(瀧口・大村・和田編)創元社、2021年。ISBN:978-4422117737 『Compassion(コンパッション)--状況にのみこまれずに、本当に必要な変容を導く、「共にいる」力』(ジョアン・ハリファックス) 英治出版、2020年。ISBN:978-4862762764

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	個別指導Ⅰ
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	不定期 １人25分の個人面談　※日程は開講後に調整
単位数	１単位
担当教員	栗原幸江、伊藤高章、加藤眞三、粟津賢太
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。 「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。 毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。 ・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。
評価	出席による。

授業計画	回	担当	内容
	春学期中	栗原、伊藤 加藤、粟津	1人25分の個人面談　※日程は開講後に調整

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井） 丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	キリスト教人間学
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	寺尾寿芳（コーディネーター）、山岡三治、鈴木伸国、久保文彦、酒井陽介、佐藤啓介
講義概要	上智大学の教育理念を伝える科目。 特に、グリーフケア研究所の講義科目としてのキリスト教人間学では、キリスト教のスピリチュアリティと、その様々な展開また歴史社会とのかかわりについて理解を深める。そこから近代的人間の特徴と課題を明確化すると共に、そこに求められるスピリチュアルケアを考察する。 本講義は特にキリスト教の理論と実際という両側面に焦点を当てた内容で構成されている。つまり、キリスト教という宗教に内包される抽象的、論理的思考方法を踏まえたうえで、多様なかたちで人の現実と関係し、人の癒しと救済を志向しているかが概観される。まずはキリスト教理解の基礎にある聖書の知識を学び、続いてキリスト教の人間理解を哲学や心理学との接点から理解する。最後に宗教文化の諸事象と交叉する形で、キリスト教の人間観が示す展開可能性を探求する。なお、諸宗教のスピリチュアリティの詳細については、講義科目「宗教学」「死生学」において言及する。
授業目標	１）さまざまな学びや実践の基礎になる、キリスト教人間学が提供する根源的な批判力について理解する。 ２）キリスト教におけるスピリチュアリティと、西欧の文化・学問・思想におけるその影響について理解する。 ３）キリスト教のスピリチュアリティが養うケアの本質についての議論を理解する。
評価	学期末レポート

授業計画

	担当	内容
第1回 (9/27)	久保	イエスの霊性
第2回 (10/4)	久保	イエスの人間理解（1）――貧しい人々との関わり
第3回 (10/11)	久保	イエスの人間理解（2）――病者との関わり
第4回 (10/18)	鈴木	グリーフケアにおける「たましい」
第5回 (10/25)	鈴木	グリーフケアにおける「人格」
第6回 (11/8)	鈴木	グリーフケアにおける「こころ」
第7回 (11/15)	酒井	キリスト教の霊性（１）――キリスト教における霊性とは
第8回 (11/22)	酒井	キリスト教の霊性（２）――現代の霊性の紹介
第9回 (11/29)	佐藤	キリスト教における生と死――死と悲しみをめぐって
第10回 (12/6)	佐藤	キリスト教における生命観――尊厳死と自死を中心に
第11回 (12/13)	佐藤	キリスト教における記憶のケア
第12回 (12/20)	寺尾	祈る――この世を生きる人間（１）
第13回 (1/10)	寺尾	坐る――この世を生きる人間（２）
第14回 (1/17)	寺尾	集う――この世を生きる人間（３）
第15回 (1/24)	山岡	キリスト教の儀礼（サクラメント・秘跡）の人間学的な意味

教科書・参考書	参考書： 『カトリック教会の教え』（日本カトリック司教協議会）カトリック中央協議会、2003年 ISBN:978-4-87750-106-8 『イエスとその福音』（岩島忠彦）教友社、2005年 ISBN：978-4-90221-113-9 『ラウダート・シ　ともに暮らす家を大切に』（教皇フランシスコ）カトリック中央協議会、2016年 ISBN：978-4-87750-199-0

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	スピリチュアルケアと芸術
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	２単位
担当教員	栗原幸江（コーディネーター）、森裕子、中村圭志、大澤千恵子
講義概要	日本のスピリチュアルケア研究において最も新しい領域。 音楽・文芸・美術また身体性を含む芸術的感性とスピリチュアリティの関わりについて学ぶ。授業では、具体的な音楽・文芸・美術・舞踊その他の芸術表現を通してケアについての理解を深める。 随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。
授業目標	１）スピリチュアリティと芸術性の関係を理解する。 ２）スピリチュアルケアにおける芸術の役割をその可能性を理解する。 ３）スピリチュアルケア提供者自身の芸術性の養いについて実践的に理解する。
評価	１）毎回授業後に提出するリアクションペーパー　30% ２）各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献　20% ３）学期末レポート　50%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	中村	図像の想像力：生と死
第2回 (10/21)	中村	図像の想像力：神と霊
第3回 (11/5:日)	中村	図像の想像力：儀礼と呪術
第4回 (11/18)	大澤	スピリチュアルケアと想像力１：深層意識とファンタジー
第5回 (12/2)	大澤	スピリチュアルケアと想像力２：現実を超える想像力の働き
第6回 (12/16)	大澤	スピリチュアルケアと想像力３：超越的な世界・存在を信じる
第7回 (1/6)	森	人間存在の根幹に響く音楽の力： １）古代における人と音楽 ２）現代の音楽療法
第8回 (1/20)	森	３）分断の痛みを超えて人と人とをつなぐ音楽実践例 ４）キリスト教的人間観と音楽

教科書・参考書	

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	グリーフケア援助演習Ⅰ
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	栗原幸江、伊藤高章、加藤眞三、粟津賢太
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第２学期目の「グリーフケア援助演習Ⅰ」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を導入する。よき傾聴の前提となる、傾聴者の自己理解を深める学びを行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者から関わりを受けるワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	グループワークを開始し、自身を開きながら聴く姿勢に挑戦する １）【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響について体験的に理解しよう ２）【場に関わる】安全安心な場をつくり、そこでのフィードバックに挑戦しよう ３）【ケアの多様性】傾聴における「支持・明確化・対峙」を学ぼう
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの参与を総合的に判断して評価する。特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	栗原、伊藤 加藤、粟津	宿題の提出、2回目の自己紹介（2グループ分割）、2回目の講師（チューター含む）紹介，グループワークの主旨と進め方講義、「本の味わい」ワークの説明（グループ振り分け、担当順決定）
第2回 (10/21)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「私なりの本の味わいを分かち合う」グループワーク
第3回 (11/5・日)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「私なりの本の味わいを分かち合う」グループワーク
第4回 (11/18)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「私なりの本の味わいを分かち合う」グループワーク 「思い出の品」グループワークの説明、担当順決定
第5回 (12/2)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「思い出の品」グループワーク
第6回 (12/16)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「思い出の品」グループワーク
第7回 (1/6)	栗原、伊藤 加藤、粟津	「思い出の品」グループワーク
第8回 (1/20)	栗原、伊藤 加藤、粟津	セルフケア講義、1年の学びの振り返り、春休みの宿題「1年間の学びの振り返り」オリエンテーション

教科書・参考書	教科書： 菅野仁『友だち幻想――人と人の〈つながり〉を考える』ちくまプリマー新書 ISBN:978-4-480-68780-7

<table>
<tr><th>課程</th><th colspan="3">グリーフケア人材養成課程</th></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">個別指導Ⅱ</td></tr>
<tr><td>開講年度・学期</td><td colspan="3">２０２３年度　　秋学期</td></tr>
<tr><td>開講曜日・時限</td><td colspan="3">不定期
１人25分の個人面談　※日程は開講後に調整</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">１単位</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">栗原幸江、伊藤高章、加藤眞三、栗津賢太</td></tr>
<tr><td>講義概要</td><td colspan="3">個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。
「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。
毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。

例えば以下のような課題が予想される。
・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。
・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。
・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。
・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。
・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。
・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="3">グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="3">出席による。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業計画</td><td>回</td><td>担当</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>秋学期中</td><td>栗原、伊藤
加藤、栗津</td><td>1人25分の個人面談　※日程は開講後に調整</td></tr>
<tr><td>教科書・参考書</td><td colspan="3">参考書:
『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井）
丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6</td></tr>
</table>

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	グリーフケア臨床訪問実習Ⅰ
開講年度・学期	２０２３年度
開講曜日・時限	不定期
単位数	１単位
担当教員	栗原幸江、葛西賢太
講義概要	人材養成講座受講生が、学びの様々な段階で実際のケア現場に触れ、学習内容を確認し深化させるとともに、教室の授業では把握し尽くせない現場の課題とその力動を体感する。 具体的には、「東葛　生と死を考える会」等のご協力のもと遺族会訪問の機会を用意している。現場で起こることを細やかに観察し、その場に参加するもの同士が及ぼす影響について真摯に捉える。受講生が各自の関心に応じて、死別にとどまらない様々な悲嘆ケア現場の活動に触れることも期待している。 訪問先の事情を理解し、配慮した上で、「東葛　生と死を考える会」および上智大学グリーフケア研究所のきまりや約束事を遵守することはいうまでもない。 現場訪問と記録作成など合計１２時間程度の実習を予定している。毎回遅滞なく訪問記録を作成し、担当教員に提出するとともに、必要に応じて見学受け入れ組織にも提出する。訪問振り返りのためのリフレクション・セッションを土曜の演習に設ける。
授業目標	スピリチュアルケア、グリーフケアに必要と考えられる五つの領域を向上すべく、現場での多様で微妙な経験を通して学ぶ。 １）自己理解 ２）他者理解 ３）関係力、共感力 ４）概念化力・表現力 ５）臨床倫理実践力
評価	実習参加態度ならびに訪問記録等を踏まえて評価する。

授業計画	回	担当	内容
	第１回	栗原 葛西	訪問オリエンテーション：訪問先についての学習、訪問の手順、記録
	不定期	栗原 葛西	スケジュールを調整して、訪問。グループの活動学習、スタッフの役割学習

教科書・参考書	

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	グリーフケア援助論
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	栗原幸江（コーディネーター）、伊藤高章、佐々木炎、小川有閑、 入江杏、田村恵子、石井慶子、生田かおる
講義概要	さまざまな臨床現場のケア実践者を招き、グリーフケアの広がりとその実際を知る。グリーフケアは医療現場に限らず、さまざまな現場・臨床において実践されている。本講義では、具体的な領域でケアに携わっている講師により、ケアの特徴や課題について学ぶ。 随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを共に検討する。
授業目標	１）グリーフケアの多様な展開を理解する。 ２）さまざまなグリーフケアに共通するケアの視点・方法を理解する。
評価	学期末レポート

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/5)	栗原	グリーフケアのさまざまな現場
第2回 (4/12)	佐々木	臨床の知、老いのグリーフとその価値
第3回 (4/19)	佐々木	認知症のグリーフとその価値
第4回 (4/26)	小川	グリーフケアにおける子どものケア
第5回 (5/10)	小川	僧侶として自死遺族に向き合う
第6回 (5/17)	入江	突然の喪失悲嘆からの再生を模索する
第7回 (5/24)	入江	悲しみとともにどう生きるか
第8回 (5/31)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助（１）
第9回 (6/7)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助（２）
第10回 (6/14)	伊藤	チャプレンとしての活動の場を拓く
第11回 (6/21)	石井	周産期喪失悲嘆とそのケア
第12回 (6/28)	生田	ナラティブ的傾聴法
第13回 (7/5)	生田	感情の共同化と人生の再構築
第14回 (7/12)	栗原	援助者のグリーフ（１）
第15回 (7/19)	栗原	援助者のグリーフ（２）

教科書・参考書	各講師が指示する

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	グリーフケア援助演習Ⅱ
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	２単位
担当教員	伊藤高章、大村哲夫、柿森千草、粟津賢太
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第３学期目の「グリーフケア援助演習Ⅱ」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を継続する。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者に関わり、傾聴するワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 「グリーフケア援助演習Ⅱ」では、前半では「印象深い絵画」、後半では「人生の大切な時期を過ごした家の間取り図」の語りを題材に、グループ内の力動を経験するグループワークを行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	グループワークに慣れ、自身を開きながら聴く体験が何度かできる １）【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響、スピリチュアリティについて体験的に理解しよう ２）【場に関わって学ぶ】安全安心な場をつくり、相互のスピリチュアリティ函養を意識したフィードバックを模索しよう ３）【関係の理解と責任】傾聴における「受動態的関係力・能動態的関係力・中動態的関係力」を意識しよう
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの貢献度を総合的に判断して評価する。 特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2：日)	伊藤、大村 柿森、粟津	２年次の学習目標の分かち合い、「印象深い絵画」のオリエンテーション（新グループ振り分け、担当順決定）、訪問実習案内
第2回 (4/15)	伊藤、大村 柿森、粟津	「印象深い絵画」グループワーク、訪問実習割り振り
第3回 (4/29)	伊藤、大村 柿森、粟津	「印象深い絵画」グループワーク
第4回 (5/20)	伊藤、大村 柿森、粟津	「印象深い絵画」グループワーク、「間取り図」グループワークのオリエンテーション（新グループ振り分け、担当順決定）
第5回 (6/3)	伊藤、大村 柿森、粟津	「間取り図」グループワーク
第6回 (6/17)	伊藤、大村 柿森、粟津	「間取り図」グループワーク
第7回 (7/1)	伊藤、大村 柿森、粟津	「間取り図」グループワーク
第8回 (7/15)	伊藤、大村 柿森、粟津	春学期のまとめ、夏休みの宿題のオリエンテーション

教科書・参考書	

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	臨床倫理
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	川上祐美
講義概要	本講では、日常の生活場面から医療や科学技術のあり方まで、生と死をめぐる普遍的な問題を通して、ケアの現場で直面しうる倫理的課題について紹介していきます。 とくに、グリーフケアおよびスピリチュアルケアの前提となる倫理原則とそこに至るプロセスについて学び、実践における価値判断をもとに論理的に表現することをめざします。 随時ディスカッションの時間を設けて社会人受講生の多様な経験を分かちあい、授業内容の深化を図るとともに、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持ちうるかを検討する機会とします。
授業目標	１）グリーフケア、スピリチュアルケアにおける倫理原則について理解する。 ２）ケアにおける倫理的課題について理解する。 ３）ケアの倫理におけるパラドキシカルな状況を分析する方法、それに関わる姿勢について理解する。
評価	講義参加状況（授業内ミニレポート・ディスカッション）：80% 期末レポート（ヴィクトル・フランクル『夜と霧』ブックレポートを予定）：20%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2：日)	川上	臨床倫理の視点　―　いのちを考える
第2回 (4/15)	川上	患者主体の医療の展開　―バイオエシックスの視点から
第3回 (4/29)	川上	終末期のケアと意思決定　―　死をめぐる自己決定と事前指示
第4回 (5/20)	川上	人間らしい死とは　―　尊厳死・安楽死の国際的動向
第5回 (6/3)	川上	脳死と移植医療　―　いのちの優先順位とその格差
第6回 (6/17)	川上	家族の多様化と子どもをめぐる課題　―　LGBT、生殖医療、社会的養護
第7回 (7/1)	川上	エンハンスメントと新たな優生思想　―　高度医療化時代の健康とは
第8回 (7/15)	川上	医科学技術の運用といのちの連環　―　戦争・環境・核のこれから

教科書・参考書	参考書を随時紹介します。 関連資料・プリントを配布します。

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	個別指導Ⅲ
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	不定期 １人25分の個人面談　※日程は開講後に調整
単位数	１単位
担当教員	伊藤高章、大村哲夫、柿森千草、栗津賢太
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。 毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。 ・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。
評価	出席による。

授業計画	回	担当	内容
	春学期中	伊藤 大村 柿森 栗津	1人25分の個人面談　※日程は開講後に調整

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井） 丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	スピリチュアルケア原論
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太（コーディネーター）、浜渦辰二、栗原幸江、伊藤高章、高橋祥友、大村哲夫
講義概要	グリーフケアが、人生に不可避な様々な喪失体験に伴う心の反応の理解とケアの学問的実践的領域であるのに対し、スピリチュアルケアは、すべての人に本来備わっているスピリチュアリティとその働きに注目する。最終学期の科目として、これまでの学びを再統合する機会を提供する。スピリチュアルケア提供者とケア対象者との関係性への総合的理解を目指す。 欧米の近年の研究は、スピリチュアリティを： 「スピリチュアリティとは人間性の力動的で本質的な一側面であり、 人は、それを通して、究極的な意味・目的・超越を探し求め、 それを通して、自己・家族・他者・コミュニティ・社会・自然・大切にすべきもの・神聖 なものとの関係を経験する。 スピリチュアリティは、信仰・価値観・伝統・実践を通して表出される。」 (Puchalski, Vitillo, Hull et al. International Conference on Global Integrating Spirituality into Health, 2013) と定義するが、日本文化におけるこの妥当性も含め、思想史的・理論的・実践的に検討する。 随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。
授業目標	１）スピリチュアルケアの諸概念を理解する。 ２）スピリチュアルケア提供者の姿勢と課題を理解する。
評価	学期末レポート

授業計画

回	担当	内容
第1回 (9/27)	浜渦	イントロダクション
第2回 (10/4)	栗原	スピリチュアルケアの実践－緩和ケアとスピリチュアルケア（１）
第3回 (10/11)	栗原	スピリチュアルケアの実践－緩和ケアとスピリチュアルケア（２）
第4回 (10/18)	栗原	スピリチュアルケアの実践－緩和ケアとスピリチュアルケア（３）
第5回 (10/25)	伊藤	スピリチュアルケアの理論（１）
第6回 (11/8)	伊藤	スピリチュアルケアの理論（２）
第7回 (11/15)	伊藤	スピリチュアルケアの理論（３）
第8回 (11/22)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ（１）
第9回 (11/29)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ（２）
第10回 (12/6)	葛西	スピリチュアルケアの位置づけ（３）
第11回 (12/13)	高橋	スピリチュアルケアの背景（１）
第12回 (12/20)	高橋	スピリチュアルケアの背景（２）
第13回 (1/10)	大村	スピリチュアルケアをかんがえる（１）
第14回 (1/17)	大村	スピリチュアルケアをかんがえる（２）
第15回 (1/24)	大村	スピリチュアルケアをかんがえる（３）

教科書・参考書	参考書： 『アルコホーリクス・アノニマスの歴史』（アーネスト・カーツ）明石書店 ISBN：978-4-7503-5076-9 『共に生きるスピリチュアルケア』（瀧口俊子他）創元社）ISBN:978-4-422-11773-7

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	総合演習
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	２単位
担当教員	伊藤高章、大村哲夫、柿森千草、粟津賢太
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第４学期目の「総合演習」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を継続する。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者に関わり、傾聴するワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 「総合演習」では、前半では〈死生観〉、その後は〈臨床傾聴士として活動するビジョン〉を題材にし、グループ内の力動を経験するグループワークを行う。加えてグループファシリテーションの実習も行う。 特に、授業目標に挙げた四つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	グループワークに慣れ、自身を開いて聴く体験がしばしばできる １）【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響、スピリチュアリティについて体験的に理解しよう ２）【場に関わって学ぶ】安全安心な場をつくり、相互のスピリチュアリティ涵養を意識したフィードバックを模索しよう ３）【関係の理解と責任】実践に必要な理解を身につけ、相手に伝わる適切な表現を探そう ４）【適切なケア関係を作る】相互の歩みを尊重し、臨床倫理を踏まえた関係に挑戦しよう
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの貢献度を総合的に判断して評価する。 特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	伊藤、大村 柿森、粟津	学習課題の確認　「死生観」ワークのオリエンテーション（新グループ振り分け、担当順決定）
第2回 (10/21)	伊藤、大村 柿森、粟津	「死生観」のグループワーク
第3回 (11/5・日)	伊藤、大村 柿森、粟津	「死生観」のグループワーク
第4回 (11/18)	伊藤、大村 柿森、粟津	「死生観」のグループワーク
第5回 (12/2)	伊藤、大村 柿森、粟津	〈臨床傾聴士として活動するビジョン〉グループワーク およびファシリテーション実習
第6回 (12/16)	伊藤、大村 柿森、粟津	〈臨床傾聴士として活動するビジョン〉グループワーク およびファシリテーション実習
第7回 (1/6)	伊藤、大村 柿森、粟津	〈臨床傾聴士として活動するビジョン〉グループワーク およびファシリテーション実習
第8回 (1/20)	伊藤、大村 柿森、粟津	2年間の学習成果の振り返り

教科書・参考書	

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	死生学
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	佐藤啓介（コーディネーター）、浜渦辰二、橋迫瑞穂
講義概要	さまざまな死生観を学ぶとともに、効率や実績を重視する現代社会の支配的価値観では捉えきれない諸問題を死生学的課題と理解し、死から人間の生全体や社会を考察し、より人間の本質に接近した立場から取り組みます。随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。
授業目標	１）死生学とは何かを理解する。 ２）死生学とスピリチュアリティの関係を理解する。 ３）死生観の変化を理解する。 ４）日本人の死生観を理解する。
評価	１）毎回授業後に提出するリアクションペーパー　30% ２）各自の経験に基づく、ディスカッション・質疑への貢献　20% ３）学期末レポート　50%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	佐藤	死生学とは何か・現代日本の死生観（死のタブー化をめぐって）
第2回 (10/21)	橋迫	妊娠・出産と現代日本のスピリチュアリティ
第3回 (11/5・日)	橋迫	「母性」・フェミニズム・スピリチュアリティ
第4回 (11/18)	佐藤	世界における死生観の多様化
第5回 (12/2)	佐藤	現代社会における死者観と死者倫理
第6回 (12/16)	浜渦	人間学としての死生学
第7回 (1/6)	浜渦	死生学における倫理学
第8回 (1/20)	佐藤	まとめ・死生学とスピリチュアリティ

教科書・参考書	参考書： 『死生学１死生学とは何か』（島薗進・竹内整一）東京大学出版会　ISBN：978-4130141215 『日本人の死生観を読む』（島薗進）朝日新聞出版　ISBN：978-4022599858 『ケアの臨床哲学への道―生老病死とともに生きる―』（浜渦辰二）晃洋書房　ISBN：978-4771031340 『妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ』（橋迫瑞穂）集英社新書　ISBN：978-4087211801

課程	グリーフケア人材養成課程
科目名	個別指導Ⅳ
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	不定期 １人25分の個人面談　※日程は開講後に調整
単位数	１単位
担当教員	伊藤高章、大村哲夫、柿森千草、粟津賢太
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。 毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。 ・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。
評価	出席による。

授業計画	回	担当	内容
	秋学期中	伊藤 大村 柿森 粟津	１人25分の個人面談　※日程は開講後に調整

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井） 丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア臨床訪問実習Ⅱ		
開講年度・学期	２０２３年度		
開講曜日・時限	不定期		
単位数	１単位		
担当教員	栗原幸江、葛西賢太		
講義概要	人材養成講座受講生が、学びの様々な段階で実際のケア現場に触れ、学習内容を確認し深化させるとともに、教室の授業では把握し尽くせない現場の課題とその力動を体感する機会。 具体的には、さまざまな患者会への訪問・参加の機会を用意している。多様なケア現場の活動に触れることを期待している。 訪問先の事情を理解し、配慮した上で、訪問先および上智大学グリーフケア研究所のきまりや約束事を遵守しなければならない。 現場訪問と記録作成など合計１２時間相当の実習を行う。毎回遅滞なく訪問記録を作成し、担当教員に提出するとともに、必要に応じて訪問先にも提出する。訪問振り返りのためのリフレクション・セッションを土曜の演習に設ける。		
授業目標	スピリチュアルケア、グリーフケアに必要と考えられる五つの領域を向上すべく、現場での多様で微妙な経験を通して学ぶ。 １）自己理解 ２）他者理解 ３）関係力、共感力 ４）概念化力・表現力 ５）臨床倫理実践力		
評価	実習参加態度ならびに訪問記録等を踏まえて評価する。		
授業計画	回	担当	内容
	第１回	栗原 葛西	訪問オリエンテーション：訪問先についての学習、訪問の手順、記録
	不定期	栗原 葛西	スケジュールを調整して、訪問。グループの活動学習、スタッフの役割学習
教科書・参考書			

課程	資格認定課程
科目名	精神医学・精神保健
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	岡村毅（コーディネーター）、宇良千秋、栃木衛、滝沢龍、東海林良昌、 小川有閑、髙瀬顕功、郷堀ヨゼフ、管心、的場由木、井藤佳恵、分田貴子
講義概要	講義は二部構成である。第1部では岡村が精神医学・精神保健について基礎的なことを伝える。なるべく平易な言葉で、わかりやすく、バランスよくお伝えしたい。第2部では一流の講師陣を招待した。グリーフケアという新しい潮流に意義を感じてわざわざ来て下さるので、熱意と節度をもって聴講してほしい。
授業目標	精神医学的思考が好きか嫌いかは関係なく、この領域で活動するのであれば必須の知識を得ること。
評価	学期末レポート

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/5)	岡村	精神医学とは何か、表象と精神医学：　世界の新しい見方
第2回 (4/12)	岡村	感情障害、パーソナリティ障害、認知行動療法：　こころの安寧を得るには
第3回 (4/19)	岡村	統合失調症、発達障害：　正常と異常は分けることができるか
第4回 (4/26)	岡村	社会精神医学：　貧困にあるひとを支援するには
第5回 (5/10)	岡村、宇良	認知症ケア学：　新世紀のケアをもとめて
第6回 (5/17)	岡村	老年精神医学：　健康長寿社会で何が起きているのか
第7回 (5/24)	栃木	遺伝子研究
第8回 (5/31)	滝沢	逆境体験の長期的影響を科学する
第9回 (6/7)	東海林、小川 髙瀬、郷堀	精神科医と宗教者の協働に関する最先端の研究について、僧侶と研究者からなるチームが紹介します。
第10回 (6/14)	栃木	総合病院の緩和ケアチームの一員として精神科医は何をしているのか
第11回 (6/21)	管	リカバリー～統合失調症と共に生きる～
第12回 (6/28)	的場	ホームレス・生活困窮者支援の現場から
第13回 (7/5)	井藤	臨床倫理
第14回 (7/12)	分田	治療による見た目の変化へのケアとQOL
第15回 (7/19)	分田	患者生活を支える医学

教科書・参考書	何事もそうですが、初めは普通の知識をさっと身につけた方がよいでしょう。『精神神経疾患ビジュアルブック』（学研メディカル秀潤）ISBN:978-4-7809-1160-2 は絵も多く分かりやすいですが買わなくともよいです（私も書いているので利益相反が多少ある）。松本 俊彦の『誰がために医師はいる』はとても内容が濃く、本物の精神科医の本です（皆さんうすうす感じていると思いますが、売れてる本は本職から見るとイロモノが多いです）。東畑 開人の『居るのはつらいよ: ケアとセラピーについての覚書 』も精神科病院の空気感がよくわかる本です。 （注）なお、当事者系の本や、オープンダイアローグの本は、面白いですし、皆さんが読みたがるのは重々分かっているのですが、「こころ病む人のケアをしたい→まずは専門家になるために様々な知識を仕入れる→現場に出て理論と現実のギャップに驚き絶望する→現場で修羅場をくぐり現場を回せるようになる→やっぱり何か違うよなと思う→現場を変えるべく改めていろいろと学びたいと思う」という一連の動作の後に読むと、読み方がだいぶ違う（深く読める）と言っておきます。

課程	資格認定課程
科目名	文献講読Ⅰ
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	１単位
担当教員	栗原幸江
講義概要	グリーフケアやスピリチュアルケアの基盤となる臨床の姿勢や対人援助に関わる人の「在り方」、そしてセルフケア・スタッフケアを考える上で重要な文献を講読する演習である。 患者・家族・医療者の「病いの語り」をていねいに、そして的確に読み解くために必須となる「物語能力（ナラティブ・コンピテンス）」を磨き育むために開発された「ナラティブ・メディスン」を実践を重ねながら学んでゆく。各回文献を読み解き、テキストの内容理解とワーク実践を重ねるディスカッションを行う。
授業目標	1）文献講読を通じて生じる自身の省察や発見を言語化できる 2）「物語能力」(narrative competence）について説明ができる 3）ワークを通じて自身の臨床を振り返り、言語化できる
評価	授業における意欲度（積極的な発言、ディスカッションへの参加等）30%、リアクションペーパー40%、期末レポート30%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2:日)	栗原	「病の語り」と読み解く力としての「物語り能力」
第2回 (4/29)	栗原	「物語能力」を磨く：精密読解　①
第3回 (6/3)	栗原	「物語能力」を磨く：精密読解　②
第4回 (7/15)	栗原	「物語能力」と臨床倫理

教科書・参考書	教科書：『ナラティブ・メディスン：物語能力が医療を変える』（リタ・シャロン著／斎藤清二、岸本寛史 他訳）医学書院　2011　ISBN:978-4-260-01333-8 参考書：『ナラティブ・メディスンの原理と実践』（リタ・シャロン著/斎藤清二、栗原幸江、齋藤章太郎訳）北大路書房 2019 他、授業内で紹介する

課程	資格認定課程
科目名	臨床心理とグリーフケア
開講年度・学期	２０２３年度　春学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	１単位
担当教員	加藤理絵
講義概要	グリーフケア人材養成講座資格認定課程は、上智大学認定「臨床傾聴士」資格取得者が、日本スピリチュアルケア学会「スピリチュアルケア師」取得を目指し、様々な対人援助専門職との緊密なチームケアにスピリチュアルケア提供者として参加できる能力を修得するための教育を提供している。 本講義では、スピリチュアルケアの視点・援助方法と隣接する臨床心理について、理論・実践の体系を概観し、その人間観およびケア観を理解し、スピリチュアルケア職が多職種連携を通してより良いケアを提供するための基礎知識の習得を目指す。
授業目標	受講者それぞれが、対人援助の専門職として他者に対するケアを行うことにおける責任と姿勢を身に着けることを目標する。
評価	授業における意欲度（積極的な発言、ディスカッションへの参加等）70%、期末レポート30%

授業計画	回	担当	内容
	第1回 (4/15)	加藤	オリエンテーション、発表担当者決め　臨床心理学とは
	第2回 (5/20)	加藤	初学者が直面する問題・援助過程を構成する諸段階
	第3回 (6/17)	加藤	援助専門職が直面する倫理的問題・価値観と援助関係
	第4回 (7/1)	加藤	援助の専門職としての心構え　振り返り

教科書・参考書	教科書：『心理援助の専門職になるために-臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト（臨床心理学レクチャー Becoming a helper.3rd ed.）』マリアン・コーリィ，ジェラルド・コーリィ，下山 晴彦 金剛出版（2004/4/25） ISBN:978-4-772-40822-6

課程	資格認定課程
科目名	実習スーパービジョンⅠ
開講年度・学期	２０２３年度　　春学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太、大村哲夫、柿森千草
講義概要	グループに分かれて、いくつかの題材にそって話し合うことで、ケアを体験的・実践的に学ぶ。 自己の課題・限界・可能性を認識しつつ、ほかならぬその自己をもってケアにあたることを、知的にも感覚的にも学習する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が実感でき、ケアの現場で適切に用いうるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができ、またその際に、社会常識と倫理にも配慮しうるようになる。
評価	出席および演習への積極的参加、自己課題への取り組みを総合的に判断する。 特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (4/2：日)	葛西、大村 柿森	資格認定課程オリエンテーション。学習目標の分かち合い、通年実習説明、「安心できる場所」のオリエンテーション（グループ分け、担当順決定）
第2回 (4/15)	葛西、大村 柿森	「安心できる場所」グループワーク、通年実習準備、
第3回 (4/29)	葛西、大村 柿森	「安心できる場所」グループワーク
第4回 (5/20)	葛西、大村 柿森	「安心できる場所」グループワーク、「死生観」グループワークのオリエンテーション（新グループ振り分け、担当順決定）
第5回 (6/3)	葛西、大村 柿森	「死生観」グループワーク
第6回 (6/17)	葛西、大村 柿森	「死生観」グループワーク
第7回 (7/1)	葛西、大村 柿森	「死生観」グループワーク
第8回 (7/15)	葛西、大村 柿森	春学期のまとめ、夏休みの宿題（「ケア者を目指している私たちへ」）のオリエンテーション

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井）丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	資格認定課程
科目名	個別指導Ⅴ
開講年度・学期	２０２３年度　春学期
開講曜日・時限	不定期 １人25分の個人面談　※日程は開講後に調整
単位数	１単位
担当教員	葛西賢太、大村哲夫、柿森千草
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。 「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。 毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。 ・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。
評価	出席による。

授業計画	回	担当	内容
	春学期中	葛西、大村 柿森	1人25分の個人面談　※日程は開講後に調整

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井）丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	資格認定課程
科目名	先端医療・緩和医療
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	水曜日　６時限
単位数	２単位
担当教員	水嶋章郎（コーディネーター）、渡邉心、鹿間直人、吉川征一郎、井関雅子、加藤俊介、奥出有香子、阿瀬寛幸、奥野滋子、髙木辰哉、田嶋美幸、髙橋啓示、藤村純也、北出真理
講義概要	我が国の先端医療・緩和医療の現状を概説する
授業目標	スピリチュアルケア／グリーフケア担当者として医療現場でチームの一員として働く際に心得ておくべき、今日の医療のレベルをわきまえておく
評価	出席およびリアクションペーパー提出状況によって評価する ※状況によりレポート提出を課すことがある

授業計画

回	担当	内容
第1回 (9/27)	水嶋	我が国の緩和医療の現況
第2回 (10/4)	渡邉	救急医療
第3回 (10/11)	加藤	薬物療法
第4回 (10/18)	鹿間	緩和的放射線治療
第5回 (10/25)	吉川	手術療法、低侵襲手術、消化器癌
第6回 (11/8)	井関	がん患者の経験する疼痛と治療法
第7回 (11/15)	奥出	がん看護～リンパ浮腫のあるがん患者の看護を通じて～
第8回 (11/22)	阿瀬	リハビリテーションの魔法
第9回 (11/29)	奥野	在宅医療、緩和医療「終末期の喪失の連続から得られたもの」
第10回 (12/6)	髙木	整形外科、がんの運動器診療
第11回 (12/13)	田嶋	緩和に使う薬の知識
第12回 (12/20)	髙橋	緩和ケアと臨床心理学
第13回 (1/10)	藤村	小児科医療の特性と小児がん
第14回 (1/17)	北出	妊孕性温存療法
第15回 (1/24)	水嶋	総括、緩和医療の将来

教科書・参考書	参考書：『患者さんと家族のための がんの痛み治療ガイド増補版（2017）』 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン統括委員会（編集)ISBN: 978-4-307-10186-8

課程	資格認定課程
科目名	ソーシャルワークとグリーフケア
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	１単位
担当教員	栗原幸江
講義概要	本講義では、スピリチュアルケアの視点・援助方法と隣接するソーシャルワークについて、理論・実践の体系を概観し、その人間観およびケア観を理解し、スピリチュアルケア職が多職種連携を通してより良いケアを提供するための基礎知識の習得を目指す。特にがん医療の現場における臨床実践を主テーマとして、患者・家族・医療者の関係のダイナミクスやシステム的な視座を取り上げていきたい。
授業目標	1）文献講読と講義を通じて医療ソーシャルワーカーの役割と視座を言語化できる 2）グリーフケアをめぐるソーシャルワーカーの実践を理解できる 3）講義とディスカッションを通じて多職種連携について言語化できる
評価	授業における意欲度（積極的な発言、ディスカッションへの参加等）30%、リアクションペーパー40%、期末レポート30%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	栗原	グリーフワークとソーシャルワークの視座
第2回 (11/5:日)	栗原	がん闘病に伴うグリーフワークとグリーフケア
第3回 (12/2)	栗原	家族ケアと遺族ケア
第4回 (1/6)	栗原	多職種チーム医療とスタッフケア

教科書・参考書	教科書：『急に具合が悪くなる』（宮野真生子・磯野真穂著）晶文社 2019 ISBN：978-4-7949-7156-2 参考書：『対話精神療法の初心者への手引き』（神田橋條治） ISBN ： 978-4-915-69437-0 『君の悲しみが美しいから僕は手紙を書いた』（若松英輔）河出書房新社2014年 ISBN：978-4-309-02272-7

課程	資格認定課程
科目名	文献講読Ⅱ
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　１・２時限
単位数	１単位
担当教員	加藤理絵
講義概要	グリーフケア、スピリチュアルケアに関連する重要な文献を講読する演習である。 受講者内で発表担当者を決め、参考図書、文献の内容のプレゼンテーションを行うこと、各発表者のプレゼンテーション内容、テーマについて受講者間でのディスカッションを行うことを基本とする。 また、場合によってはテキストが展開するケアや実践について、ワークを行う場合もある。
授業目標	グリーフケア、スピリチュアルケアに関する国内外の様々な文献を通し、専門職としての重要な知識、最新の知識を身に着けることを目標とする。
評価	授業意欲度（授業における発表、ディスカッションにおける発言等による）70%、および期末レポート30%

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/21)	加藤	オリエンテーション、文献紹介　発表担当者決め
第2回 (11/18)	加藤	受講者発表１　ディスカッション
第3回 (12/16)	加藤	受講者発表２　ディスカッション
第4回 (1/20)	加藤	受講者発表３　ディスカッション　振り返り

教科書・参考書	教科書は、初回授業において提示する。　参考文献は、講義中、必要に際し適宜紹介する。

課程	資格認定課程
科目名	実習スーパービジョンⅡ
開講年度・学期	２０２３年度　　秋学期
開講曜日・時限	土曜日　３・４時限
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太、大村哲夫、柿森千草
講義概要	グループに分かれ、会話記録の検討等を通じて、「集中臨床実習・演習Ⅰ」「通年実習」のふりかえりを行い、ケアを体験的・実践的に学ぶ。自己の課題・限界・可能性を認識しつつ、ほかならぬその自己をもってケアにあたることを、知的にも感覚的にも学習する。 グループに分かれて、いくつかの題材にそって話し合うことで、ケアを体験的・実践的に学ぶ。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が実感でき、ケアの現場で適切に用いうるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができ、またその際に、社会常識と倫理にも配慮しうるようになる。
評価	出席および演習への積極的参加、自己課題への取り組みを総合的に判断する。 特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。

授業計画

回	担当	内容
第1回 (10/7)	葛西、大村 柿森	オリエンテーション、「集中臨床実習・演習Ⅰ」ふりかえり
第2回 (10/21)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり１(会話記録の検討)
第3回 (11/5・日)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり２（会話記録の検討）
第4回 (11/18)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり３(会話記録の検討)
第5回 (12/2)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり４（会話記録の検討）
第6回 (12/16)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり５（会話記録の検討）
第7回 (1/6)	葛西、大村 柿森	通年実習ふりかえり６（会話記録の検討）
第8回 (1/20)	葛西、大村 柿森	まとめ

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井）丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

<table>
<tr><th>課程</th><th colspan="3">資格認定課程</th></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">個別指導Ⅵ</td></tr>
<tr><td>開講年度・学期</td><td colspan="3">２０２３年度　　秋学期</td></tr>
<tr><td>開講曜日・時限</td><td colspan="3">不定期
１人25分の個人面談　※日程は開講後に調整</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">１単位</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">葛西賢太、大村哲夫、柿森千草</td></tr>
<tr><td>講義概要</td><td colspan="3">個人面談を通じて、受講生個々の、ケア提供者としての課題・限界・可能性について検討する。
「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する実践〉、〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。私たちは〈セルフケア〉として、「治療」や「癒し」ではなく、ケアを届ける器としての自分自身を見まもる姿勢を考える。
自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケア（care＝配慮する、気にかけていく）してゆく姿勢を養うことで、他者に届けるケアをよりよきものにしていくことを目指している。
毎回の演習への「リフレクション」を踏まえて、学期に１～2回、担当教員との面談が行われる。

例えば以下のような課題が予想される。
・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。
・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。
・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。
・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。
・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。
・自身には見えず他者からは見えている自身を、どのようにケアに活かしていくか。</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="3">グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができるようになる。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="3">出席による。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業計画</td><td>回</td><td>担当</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>秋学期中</td><td>葛西、大村
柿森</td><td>１人25分の個人面談　※日程は開講後に調整</td></tr>
<tr><td>教科書・参考書</td><td colspan="3">参考書:
『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井）
丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6</td></tr>
</table>

課程	資格認定課程
科目名	集中臨床実習・演習Ⅰ
開講年度・学期	２０２３年度
開講曜日・時限	集中
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太、栗原幸江、大村哲夫、柿森千草、伊藤高章
講義概要	（1）医療・福祉の臨床現場において、ケアチームに参加。現実にケアニーズを抱える方を訪問し、傾聴を中心としたケアを実践する。並行して（２）個人の課題や訪問の記録をグループで検討する演習、（３）個人の課題を明確しそれに取り組む個人スーパービジョンを行う。以上の三者が連動し、知識の習得にとどまらない、感性・感情・身体感覚を動員した学びの経験を作り上げる共同作業に取り組む。そして、全身全霊で傾聴されること・傾聴することの意味を体解する。 【演習科目と共通する約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。またこの実習では、ケアニーズを抱えた方への守秘義務を尊重しつつ、医療・福祉スタッフと業務に不可欠な情報共有をするという、集団守秘義務のあり方を学ぶ。
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が実感でき、ケアの現場で適切に用いうるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。
評価	臨床実習内容30％、演習50％、学習成果報告20％： 他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力の、七つの力に照らして評価する。

授業計画	回	担当	内容
	集中	葛西 栗原 大村 柿森 伊藤	2023年度夏期休暇中に、医療・福祉施設等を会場に約一週間の集中実習を行う。 この実習は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間（120時間）のうちの20時間として充当される。また、同演習時間の30時間として充当される。

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井） 丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

課程	資格認定課程
科目名	集中臨床実習・演習Ⅱ
開講年度・学期	２０２３年度
開講曜日・時限	集中
単位数	２単位
担当教員	葛西賢太、栗原幸江、大村哲夫、柿森千草、伊藤高章
講義概要	（1）医療・福祉の臨床現場において、ケアチームに参加。現実にケアニーズを抱える方を訪問し、傾聴を中心としたケアを実践する。並行して（２）個人の課題や訪問の記録をグループで検討する演習、（３）個人の課題を明確しそれに取り組む個人スーパービジョンを行う。以上の三者が連動し、知識の習得にとどまらない、感性・感情・身体感覚を動員した学びの経験を作り上げる共同作業に取り組む。そして、全身全霊で傾聴されること・傾聴することの意味を体解する。 【演習科目と共通する約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。またこの実習では、ケアニーズを抱えた方への守秘義務を尊重しつつ、医療・福祉スタッフと業務に不可欠な情報共有をするという、集団守秘義務のあり方を学ぶ。
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が実感でき、ケアの現場で適切に用いうるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。
評価	臨床実習内容30％、演習50％、学習成果報告20％： 他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力の、七つの力に照らして評価する。

授業計画	回	担当	内容
	集中	葛西 栗原 大村 柿森 伊藤	2023年度の春期休暇中に、医療・福祉施設等を会場に約一週間の集中実習を行う。 この実習は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間（120時間）のうちの20時間として充当される。また、同演習時間の30時間として充当される。

教科書・参考書	参考書: 『対話のことばーーオープンダイアローグに学ぶ問題解消のための対話の心得』（井庭・長井） 丸善出版　ISBN:978-4-621-30314-6

<table>
<tr><th>課程</th><th colspan="3">資格認定課程</th></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">通年実習</td></tr>
<tr><td>開講年度・学期</td><td colspan="3">２０２３年度</td></tr>
<tr><td>開講曜日・時限</td><td colspan="3">通年</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>講義概要</td><td colspan="3">受講生自身が選んだ臨床現場において、年間80時間以上の実習を行う。臨床現場での経験・学びと合わせ、実習報告としての会話記録の検討（集中臨床実習・演習ⅠおよびⅡ）を通して、各自の関心に即してケアを体験的・実践的に学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="3">資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動態的関係力、受動態的関係力、中動態的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が実感でき、ケアの現場で適切に用いうるようになる。
ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。
周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="3">通年実習については成績評価の対象としない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業計画</td><td>回</td><td>担当</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>4月の授業内でのディスカッションをもとに、実習先を決定し、綿密な通年実習計画を立て、必要な実習依頼手続きを経て、実習に入る。
この通年実習の時間は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会の臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間（120時間）のうちの80時間を充当する。
通年実習での学び、課題については、「実習スーパービジョンⅠ」「実習スーパービジョンⅡ」の授業グループワークを通して検討する。</td></tr>
<tr><td>教科書・参考書</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【上智大学グリーフケア研究所　人材養成講座細則】

制定　平成 23 年 4 月 1 日
改正　平成 27 年 4 月 1 日　　平成 29 年 4 月 1 日

第１章　目的
（趣旨）
第１条　この細則は、グリーフケア研究所規程第３条第２項に基づき、上智大学（以下「本学」という。）が設置する上智大学グリーフケア研究所（以下「研究所」と言う。）が開講するグリーフケア人材養成講座（以下、「講座」という。）について、必要な事項を定める。
（目的）
第２条　講座は、本学の教育精神、“For Others, With Others - 他者のために、他者とともに生きる者”に基づき、死生学を基盤とし、さまざまな喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱える個人や共同体に対して、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成することを目的とする。
（自己点検評価）
第３条　研究所は、講座の教育水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育活動の状況について自己点検及び評価を実施するものとする。
２　自己点検及び評価の実施体制並びに方法については、別に定める。
（課程）
第４条　第２条の目的を達成するために、次の課程を置く。
(1)　グリーフケア人材養成課程
(2)　資格認定課程
(3)　専門課程
２　前項の各課程の入学定員は、別に定める。

第２章　修業年限、学年、学期及び休業日
（修業年限）
第５条　前条に定める各課程の修業年限は、次のとおりとする。
(1)　グリーフケア人材養成課程　2 年間
(2)　資格認定課程　　1 年間
(3)　専門課程　　1 年間
（学年及び学期）
第６条　学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。
第７条　学期は、学年を分けて、春学期及び秋学期とし、それぞれ次の期間とする。
春学期　　4 月 1 日から 9 月 20 日まで
秋学期　　9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで
（休業日）
第８条　授業休業日は、次のとおりとする。ただし、第５号から第７号の授業休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。
(1)　日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
(3)　創立記念日（11 月 1 日）
(4)　聖ザビエルの祝日（12 月 3 日）
(5)　春期休業
(6)　夏期休業
(7)　冬期休業
２　上智大学長（以下、「学長」という。）は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。
３　学長は必要に応じ、第１項各号に定める授業休業日を、授業日（補講日及び集中講義期間を含む）とすることができる。

第３章　授業科目及び単位
（授業科目の種類）
第９条　授業科目の種類は、本学及び他施設で行う講義科目、演習科目及び実習科目とする。
２　授業科目の編成は、別に定める。
３　前項で定めるもののほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。
（単位の付与）
第１０条　授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。
２　授業科目の単位は、別に定める。

（単位数）
第１１条　授業科目の単位数は、1 単位履修に 45 時間の学修を要することを標準とし、次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。
(1)　講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
(2)　実習については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とする。
２　1 単位の計算基礎となる授業時間については、学長がこれを決定する。

第４章　入学、休学、退学及び再入学
（入学の時期）
第１２条　入学時期は、学年の始めとする。
（グリーフケア人材養成課程への入学の許可）
第１３条　本学は、次の各号に該当する者につき、選考の上、グリーフケア人材養成課程への入学を許可する。
(1)　専門的な知識・援助技術をもって、グリーフケアの実践に携わることを目的とし、次のすべてに該当する者
①　心身ともに健康である者
②　多様な思想・宗教・伝統・文化・価値観があることを謙虚に受け入れて、自己の成長を目指している者
③　教員や他の受講生とのコミュニケーションを通して、相互研鑽を図ることができる者
④　学習に支障をきたすような自分自身の強いケアニーズを抱えていない者
(2)　次のいずれかの学歴または職歴を有する者
①　大学（短期大学を含む）を卒業、または卒業見込みの者
②　国内外において、学校教育における 12 年の課程を修了し、さらに専門課程を置く専修学校において 2 年以上の課程を修了、または、修了見込みの者
③　上記①および②と同等以上の学力があると認められた者
④　社会福祉士、介護福祉士又は精神保健福祉士の資格を有し、当該資格にかかる実務経験が 10 年以上ある者
２　入学の許可は、学長がこれを決定する。
（資格専門課程への入学の許可）
第１４条　本学は、第４条に定めるグリーフケア人材養成課程を修了した者につき、選考の上、資格認定課程への入学を許可する。
２　前項にかかわらず、グリーフケア人材養成課程を修了した者と同等であると認められた場合、グリーフケア人材養成課程を修了していない者について、資格認定課程への入学を許可することができる。
３　入学の許可は、学長がこれを決定する。
（専門課程への入学の許可）
第１５条　本学は、第４条に定める資格認定課程を修了した者につき、選考の上、専門課程への入学を許可する。
２　前項にかかわらず、資格認定課程を修了した者と同等であると認められた場合、グリーフケア人材養成課程を修了していない者について、専門課程への入学を許可することができる。
３　入学の許可は、学長がこれを決定する。
（出願）
第１６条　第４条に定める各課程への入学を志願する者は、所定の入学検定料を納入し、本学所定の入学願書を指定の期日までに提出しなければならない。
２　既納の入学検定料は、返還しない。
（選考）
第１７条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
（入学手続）
第１８条　前条に基づき入学を許可された者は、所定の入学手続書類に入学納付金を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。
（再入学の取扱）
第１９条　第４条に定める各課程中途で退学し、再び入学しようとする者については、別に定める。
（休学）
第２０条　傷病、家事都合、その他のやむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。
２　休学の期間は、1 学期又は 1 学年を区分とし、通算で在学する課程の修業年限を超えることはできない。
３　許可された休学期間が満了した場合は、復学とする。
４　休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は、所定の復学届を提出しなければならない。
（在学年数）
第２１条　第４条に定める各課程に在学する年数は、在学する課程の修業年限の 2 倍を越えることはできない。
２　前項の在学年数に、休学期間を含まない。
（退学）
第２２条　退学しようとする者は、所定の様式による退学願を受講生証とともに提出し、学長の許可を受けなければならない。
２　退学を願い出る者は、その時期までの受講料等を完納しなければならない。

第５章　各課程の履修、試験、成績評価及び修了
（履修科目・単位数）
第２３条　第４条に定める各課程の履修科目及び単位数は、別に定める。
２　第４条に定める各課程において履修すべき授業科目の一部について、他の学校等により同等の授業科目を修得したときは、当該科目を認定し、授業科目の履修を免除することができる。
３　前項の細目については、別に定める。
（試験）
第２４条　定期試験は、筆記試験又はレポート試験とし、本学が定める期間に行う。
（成績評価）
第２５条　授業科目の成績評価は、上位より A(100～90 点)、B（89～80 点）、C（79～70 点）、D(69～60 点)、F（59 点以下）、X 及び P の評語をもって表示し、A、B、C、D を合格、F 及び X を不合格とし、P を認定とする。
２　前項に定める成績評価において、F 及び X の成績評価を得た授業科目は、再履修しなければならない。
（修了）
第２６条　第５条に定める各課程の修業年限を満たし、修了に必要な所定の授業科目の単位を修得した者については、学長が修了を認定する。
２　修了の期日は、毎年 3 月 31 日とする。
３　修了者には、学校教育法が定める「履修プログラム」に基づく「履修証明書」が付与される。
（資格付与等）
第２７条　第４条に定めるグリーフケア人材養成課程において所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、「臨床傾聴士」の資格が付与される。
２　資格認定課程において、所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」への推薦資格が付与される。
３　専門課程において、所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、日本スピリチュアルケア学会が認定する「専門スピリチュアルケア師」への推薦資格が付与される。

第６章　賞罰
（表彰）
第２８条　学長は、人物及び学術優秀な受講生を表彰する。
（懲戒）
第２９条　受講生としてその本分に反した行為があったと認められたときは、その軽重に従い、退学又は訓告処分とする。
(1)　著しく性行不良で改善の見込みがないと認められた者
(2)　学内の秩序を乱した者
(3)　大学の名誉を著しく毀損した者
(4)　授業運営を妨害、又は他の受講生の学習に支障をきたした者
(5)　その他本学に在学させることが不適当と認められた者
２　前項の処分は、学長が行う。
３　前二項に定めるもののほか、受講生の処分に必要な事項は別に定める。

第７章　納付金及び受講料等
第３０条　第１８条に定める入学に必要な納付金は、別に定める。
２　受講生は、受講料等納付金を所定の期限内に納めなければならない。
３　前条の受講料等納付金を所定の期日までに納付しない者は、退学させる。
４　休学時の受講料等納付金については、別に定める。
５　既納の受講料等諸納付金は、返還しない。

第８章　その他
第３１条　本細則に定めていない事項及び本細則の改正については、本学院の定める手続による。

附 則
この規程は 2011 年（平成 23 年）4 月 1 日から施行する。
附則
この規程は施行後、3 年を目途に見直すものとする。
附則
この規程は、2015 年（平成 27 年）4 月 1 日から改正、施行する。
附則
１　この規程は、2017 年（平成 29 年）4 月 1 日から改正、施行する（細則への名称変更、条文の修正）。
２　この改正前の受講生に係わる第４条、第５条、第１３条～第１５条、第２３条、第２６条及び第２７条の適用については、なお従前の例による。

【上智大学グリーフケア研究所臨床傾聴士に関する内規】

制定　2018年4月1日

（趣旨）
第1条　この内規は、上智大学グリーフケア研究所人材養成講座細則（以下「細則」という。）第27条第1項の定めにより、上智大学グリーフケア研究所（以下「研究所」という。）が付与する臨床傾聴士の資格について必要な事項を定める。

（定義）
第2条　臨床傾聴士とは、グリーフ(悲嘆）やスピリチュアルな痛みを抱える個人や共同体に寄り添い耳を傾けるケア提供者であって、研究所が認定する者をいう。

（資格付与要件）
第3条　臨床傾聴士の資格は、細則第5条第1項第1号に定める「グリーフケア人材養成課程」の所定の単位を優秀な成績で修得しかつ所定の総合審査に合格した者又はこれに準ずる者に対して付与することができる。

（名称）
第4条　臨床傾聴士の資格を得た者は、「上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士」又は「臨床傾聴士（上智大学グリーフケア研究所認定）」と称することができる。
2　臨床傾聴士の資格を得た者は、前項に定める名称のみを使用し、名称の省略又は改変を行ってはならない。

（資格の更新）
第5条　臨床傾聴士の資格の有効期間は5年間とする。
2　次に掲げる各号のすべてに該当する者に対して、臨床傾聴士の資格を更新する。
(1)　研究所が主催する講座修了生を対象とした「実践・研究発表会」において、5年間に1回以上の発表を行うこと。
(2)　グリーフケア、スピリチュアルケアにかかる活動実績を、5年間に1回提出し、研究所の審査に合格すること。
3　前項の各号に定める資格更新を行わなかった者は、臨床傾聴士の資格を喪失する。

（資格の剥奪）
第6条　臨床傾聴士が次の各号のいずれかに該当すると認められたとき、研究所は、臨床傾聴士の資格を剥奪する。
(1)　「上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士行動規範」に抵触したと認められたとき。
(2)　臨床傾聴士の名称を不適切な目的で利用したとき。
(3)　上智大学及び上智大学グリーフケア研究所の名誉を毀損、若しくは信用を傷つける行為があったと認められたとき、又はこの内規に抵触する行為があったと認められたとき。
(4)　その他臨床傾聴士として不適切な行為があったと認められたとき。
2　前項第2号及び第3号により、上智大学又は研究所に損害を与えたとき、学校法人上智学院はその損害の賠償を請求することがある。

（その他）
第7条　この内規に定めのない事項については、上智大学グリーフケア研究所運営委員会が定める。

（内規の改廃）
第8条　この内規の改廃は、上智大学グリーフケア研究所運営委員会の意見を徴し、本学院の定める手続きにより行う。

附則
この内規は、2018年（平成30）年4月1日から施行する。

上智大学グリーフケア研究所　グリーフケア人材養成講座
グリーフケア人材養成課程・資格認定課程
2023 年度履修要覧・シラバス

編集・発行　上智大学グリーフケア研究所【東京四谷キャンパス】
〒102 - 8554　東京都千代田区紀尾井町 7-1
Tel　03-3238-3776　Fax:　03-3238-4661
Email　griefcare@sophia.ac.jp